

令和5年版
森林総合研究所北海道支所
年 報

Annual Report 2023



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所北海道支所
Hokkaido Research Center
Forestry and Forest Products Research Institute

令和 5 年版森林総合研究所北海道支所年報

目 次

はじめに	1
I. 森林総合研究所研究課題一覧	2
II. 鳥類標識調査結果	6
III. 広報活動	16
IV. 研究業績	19
V. 資料	
1. 会議	38
2. 諸行事	39
3. その他の諸会議	39
4. 職員の研修・講習	40
5. 受託出張	41
6. 外国出張	46
7. 研修生の受入	47
8. 来訪者	48
9. 広報活動	49
10. 図書の収集・利用	50
11. 固定試験地・収穫試験地	51
12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧	52
13. 羊ヶ丘の気象	53
VI. 総務	
1. 沿革	56
2. 土地・施設	57
3. 組織	58
4. 職員の異動	59
5. 職員名簿	60
6. 事業予算額	61

はじめに

令和4年度は、国立研究開発法人森林研究・整備機構の第5期中長期目標期間(5か年)の2年目となります。北海道支所では中長期目標期間において、北方天然林を中心とした森林の機能を持続的に発揮させる管理手法の開発に関する研究と附随する業務を進めるため、北海道を中心とした森林や林業に関する試験研究を行っています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による規制が緩和され、試験研究の実施や研究成果の発信が行いやすくなりました。北海道地域一般公開は昨年度に引き続き支所ホームページ上での研究や業務のコンテンツ公開となりましたが、北海道地域研究成果発表会は「北海道森林資源の持続可能な利用を目指して」というテーマで3年ぶりに会場で開催しました。このほか、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震に伴う森林被害の早期復旧と地域の林業・木材産業の復興に向けて設置された「胆振東部森林再生・林業復興連絡会議」に委員を派遣し、引き続き復興に協力しています。

一方、支所構内の実験林でヒグマが自動撮影カメラに写っていたことから、構内への立ち入りを制限し、標本館や樹木園、実験林の公開を一時休止するということがありました。エゾシカも一定数生息しており、野生動物の管理に関する研究に支所でも取り組んでいます。

この年報には、北海道支所が令和4年度に行った活動の概要が記されています。各研究課題については表題しか載せていませんが、研究成果の一部については、支所の広報誌「北の森だより」、森林総合研究所年報、研究成果選集などに掲載しています。これらの資料は、森林総合研究所や北海道支所のホームページ上で公開していますので、ご関心のある方はぜひホームページをご覧ください。なお、北海道支所の年報には、支所が所在する羊ヶ丘の気象及び鳥類標識調査の結果を資料として連載しています。併せてご参照ください。

北海道の森林や林業を取り巻く状況は年々変化していますが、北海道支所ではこれまでと同様に国や道、市町村の行政機関や道総研森林研究本部、大学などの研究機関、森林組合、民間事業体および地域の方々と連携して、研究成果の創出と成果の普及に努めて参りますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

北海道支所長 吉田和正

令和4年度 森林総合研究所北海道支所担当研究課題一覧

課題番号		課 題 名	研究期間	支所担当 組織(G:グル ープ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
1	重点課題	環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発	3 ～ 7				
1ア	戦略課題	気候変動影響の緩和及び適応に向けた研究開発	3 ～ 7				
1アa	基幹課題	温室効果ガスの吸収・排出量の算定方法改善と気候変動影響評価手法の精緻化	3 ～ 7				
1アa1	実施課題	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動影響の評価と予測技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
1アaPF31	外部プロ課題	森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	3 ～ 7	チーム北方 林生態環境	政府等受託 【公募】	林野庁	森林吸収源インベントリ情報整備事業
1アaPF36	外部プロ課題	山火事耐性に注目した熱帯季節林のタケ類4種の共存機構	4 ～ 8	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
1アaPF41	外部プロ課題	気候変動がもたらす生態系攪乱が森林の炭素吸収量に与える影響の長期広域観測とリスクマップの構築	4 ～ 8	寒地環境保 全研究G	政府等受託 【公募】	林野庁	地球環境保全等試験研究費(地球一括)
1アaPS1	交プロ課題	ネットゼロエミッションの達成に必要な森林吸収源の評価	3 ～ 6	森林育成研 究G	交付金プロ	－	交付金プロジェクト1
1アaPS2	交プロ課題	マイナスエミッションに向けた土壌メタン吸収の広域算定手法の開発	4 ～ 7	チーム北方 林生態環境	交付金プロ	－	交付金プロジェクト1
1アb	基幹課題	気候変動緩和・適応のための多様な森林機能の活用	3 ～ 7				
1アbPF11	外部プロ課題	アンデス-アマゾンにおける山地森林生態系保全のための統合型森林管理システムの構築	2 ～ 7	植物土壌系 研究G、寒地 環境保全研 究G	政府等外 受託【競】	(研)科学技 術振興機構	地球規模課題 対応国際科学 技術協力プロ グラム (SATREPS)
1アbPF15	外部プロ課題	気候変動適応へ向けた森林遺伝資源の利用と管理による熱帯林強靱性の創出	4 ～ 8	森林育成研 究G	政府等外 受託【競】	(研)科学技 術振興機構	地球規模課題 対応国際科学 技術協力プロ グラム (SATREPS)
1イ	戦略課題	森林生物の多様性と機能解明に基づく持続可能性に資する研究開発	3 ～ 7				
1イa	基幹課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7				
1イa1	実施課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
1イaPF15	外部プロ課題	過去と現在の標本から探るハナバチと送粉ネットワークの変化	2 ～ 5	チーム生態 遺伝	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
1イaPF18	外部プロ課題	森林発達にともなうミズナラの侵入パターンの変化:アカネズミ類による種子散布の影響	30 ～ 4	森林育成研 究G、森林生 物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
1イaPF22	外部プロ課題	長距離ジーンフローが卓越する針葉樹でなぜ高標高エコタイプが存在しうるのか?	2 ～ 4	森林育成研 究G	科研費【競】	東京大学	基盤研究B(補助金)
1イaPF23	外部プロ課題	最終氷期におけるブナの潜在逃避地は北日本に存在したか?	2 ～ 5	森林育成研 究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
1イaTF3	事業・助成課題	特別天然記念物野幌原始林トドマツ遺伝分析	4 ～ 4	森林育成研 究G	政府等受託	北海道北広島市	－
1イb	基幹課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7				
1イb1	実施課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
1イbPF2	外部プロ課題	紅葉は樹冠内部の葉を守り、樹冠全体での炭素獲得と窒素回収に貢献する	2 ～ 4	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
1イbPS3	交プロ課題	トドマツにおける冠雪害抵抗性の地域間差の解明	4 ～ 5	植物土壌系 研究G	交付金プロ	－	交付金プロジェクト2
1イc	基幹課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究開発	3 ～ 7				

課題番号		課 題 名	研究期間	支所担当 組織(G:グループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
11c1	実施課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な 利用に関する研究の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
11cPF3	外部プロ課題	保残伐の大規模実験による自然共生型 森林管理技術の開発	30 → 4 5	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究A (補助金)
11cPF7	外部プロ課題	衛星画像から広大な熱帯林の生物多様 性を推定するモデルの開発と多様性情 報の地図化	3 元 → 4 5	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	国際共同研究 加速基金
11cPF12	外部プロ課題	保持林業による生物多様性保全機能を 高める保持木選定手法の開発	2 ～ 4	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	若手研究 (基金)
11cPF18	外部プロ課題	生物多様性が森林の経済価値を高める ことを実証する	3 ～ 6	北方林管理 研究G	科研費【競】	日本学術 振興会	若手研究 (基金)
1ウ	戦略課題	森林保全と防災・減災に向けた研究開発	3 ～ 7				
1ウa	基幹課題	森林における水・物質循環の機構解明と 環境保全機能の評価技術の開発	3 ～ 7				
1ウa1	実施課題	水循環・物質循環が関与する森林の機能 の評価技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
1ウaPF5	外部プロ課題	樹幹流による放射性セシウムの土壌深部 への供給が樹木の吸収へ及ぼす影響の 解明	2 → 4 5	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本学術 振興会	若手研究 (基金)
1ウaPF7	外部プロ課題	気候変動への適応に向けた森林の水循 環機能の高度発揮のための観測網・予測 手法の構築	元 ～ 4	チーム北方 林生態環境、 寒地環境保 全研究G	政府等受託 【公募】	林野庁	地球環境保全 等試験研究費 (地球一括)
1ウaPF21	外部プロ課題	ケイ酸集積植物が生み出す土壌 —プラント・オパール)の土壌粒径分布への 寄与—	4 ～ 7	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究C (基金)
1ウaPS2	交プロ課題	放射能汚染地域の林業再生に関する技 術開発	4 ～ 7	森林育成研 究G	交付金プロ	—	交付金プロ ジェクト1
2	重点課題	森林資源の活用による循環型社会の実 現と山村振興に資する研究開発	3 ～ 7				
2ア	戦略課題	気候変動影響の緩林産物の安定供給と 多様な森林空間利用の促進に資する研 究開発和及び適応に向けた研究開発	3 ～ 7				
2アa	基幹課題	維持管理コストの低い森林造成に向けた 造林・育林技術の開発	3 ～ 7				
2アa1	実施課題	造林・育林技術の実証とシーズ創出に 向けた研究開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2アaPF1	外部プロ課題	成長に優れた苗木を活用した施業モデ ルの開発	30 ～ 4	植物土壌系 研究G	政府等受託 【公募】	農林水産省	戦略的プロ ジェクト研究推 進事業(成長に 優れた苗木を 活用した施業 モデルの開発)
2アaPF4	外部プロ課題	常緑針葉樹の光合成調節機構の複合体 プロテオミクスおよび分光学的手法よる 統合的解析	2 ～ 5	植物土壌系 研究G	科研費【競】	北海道大学	基盤研究B (補助金)
2アaTF2	事業・助成課題	カラマツ類及びトドマツ種苗配置適正化 と優良品種導入による炭素吸収量の増 加効果の評価	4 ～ 4	森林育成研 究G	寄付・助成 金・共同研究	(地独)北海 道立総合研 究機構	—
2アb	基幹課題	森林資源の持続的利用に向けた林業生 産技術の開発	3 ～ 7				
2アb1	実施課題	森林デジタル情報の活用による林業生 産技術の高度化	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2アbPF4	外部プロ課題	農山村の森林整備に対応した脱炭素型 電動ロボットの研究開発	3 ～ 4	チーム林業 機械	政府等外 受託【公募】	(研)新エネ ルギー・産業 技術総合開 発機構 (NEDO)	エネルギー・環 境新技術先導 研究プログラ ム

課題番号	課 題 名	研究期間	支所担当 組織(G:グループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
2AbTF5	事業・助成課題 北欧をモデルにした十勝型機械化林業経営の実証	4 ～ 4	チーム林業 機械	寄付・助成 金・共同研究	(一社)林業 機械化協会	令和4年度「新しい林業」に向けた林業経営育成対策のうち経営モデル実証事業
2Ac	基幹課題 森林資源・空間の持続的な利用のための評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7				
2Ac1	実施課題 持続的な林業経営および森林空間利用のための評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2AcPF15	外部プロ課題 令和4年度森林情報の高度化推進に向けた条件整備等に関する調査委託事業	4 ～ 4	北方林管理 研究G	政府等受託 【公募】	林野庁	令和4年度森林情報の高度化推進に向けた条件整備等に関する調査委託事業
2Ad	基幹課題 健全な林業経営確立、山村地域振興、持続的な木材利用、新たな木材需要創出に資する方策の提示	3 ～ 7				
2Ad1	実施課題 多様化する森林との関わりを支える社会経済的・政策的方策の提示	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2AdPF16	外部プロ課題 防災上管理優先度の高い路網判定技術の開発	4 ～ 6	チーム林業 振興	政府等受託 【公募】	農林水産省	みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進(委託プロジェクト研究)
2AdPS3	交プロ課題 EBPM実現のための森林路網B/C評価ツールの開発と社会実装	3 ～ 6	チーム林業 振興	交付金プロ	—	交付金プロジェクト1
2I	戦略課題 生物特性を活用した防除技術ときのこ等微生物利用技術の開発	3 ～ 7				
2Ia	基幹課題 森林・林業・林産物に対する病虫獣害軽減技術体系の開発	3 ～ 7				
2Ia1	実施課題 樹木・林業病害の実効的制御技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2Ia2	実施課題 森林林業害虫の実効的防除技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2Ia3	実施課題 森林林業害獣の実効的防除技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	—	—
2IaPF22	外部プロ課題 樹木の土壌病害の早期発見手法の開発	3 ～ 5	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究B (補助金)
2IaPF24	外部プロ課題 「官報」記事の精査を中心とした長期データの整備による近代日本の森林被害実態の解明	3 ～ 5	チーム森林 病害	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究C (基金)
2IaPF28	外部プロ課題 根株腐朽病の被害拡大要因の解明—激害化へのターニングポイント	3 ～ 5	植物土壌系 研究G	科研費【競】	日本大学	基盤研究B (補助金)
2IaPF37	外部プロ課題 シカ肉の科学的根拠に基づく品質基準と適切な取り扱い手法の確立	4 ～ 6	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究C (基金)
2IaPF38	外部プロ課題 腐朽菌—寄生バチ共生系で機能する情報化学物質の進化プロセスの解明	4 ～ 7	森林生物研 究G	科研費【競】	日本学術 振興会	基盤研究B (補助金)
2IaPF42	外部プロ課題 With / Postナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築	4 ～ 6	森林育成研 究G	政府等外 受託【競】	(研)農業・食 品産業技術 総合研究機 構 生物系特 定産業技術 研究支援セ ンター	イノベーション 創出強化研究 推進事業
2IaPS6	交プロ課題 関東地方で拡大するナラ枯れ対策と管理指針の提案	3 ～ ⁵ / ₄	森林育成研 究G	交付金プロ	—	交付金プロジェクト1

課題番号	課 題 名		研究期間	支所担当 組織(G:グループ)	予算区分	受託相手方	事業・ プロジェクト名
21aPS9	交プロ課題	高解像度の集団遺伝解析によるナラ枯れ 拡大地域におけるカシノナガキクイムシ の由来の解明	4 ～ 5	森林生物研究G	交付金プロ	－	交付金プロジェクト2
21b	基幹課題	きのこ等微生物の特性解明と生産利用 技術の開発	3 ～ 7				
21b1	実施課題	きのこ等微生物の特性解明と生産性及 び有益性向上技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－
21bPF10	外部プロ課題	日本産トリュフの効果的な菌株採集技術 の開発	3 ～ 6	森林生物研究G	科研費【競】	日本学術振興会	基盤研究C (基金)
21bPF11	外部プロ課題	気候と土壌酸性度の2勾配に対する根 圏コンソーシアム応答の解明	3 ～ 5	森林生物研究G	科研費【競】	三重大学	基盤研究B (補助金)
21bPF13	外部プロ課題	国産トリュフの林地栽培に向けての技術 体系の構築	4 ～ 6	森林生物研究G	政府等外 受託【競】	(研)農業・食 品産業技術 総合研究機 構 生物系特 定産業技術 研究支援セ ンター	イノベーション 創出強化研究 推進事業
2ウ	戦略課題	木材利用技術の高度化と需要拡大に向 けた研究開発	3 ～ 7				
2ウa	基幹課題	用途に応じた木材製品の安定供給に向 けた特性評価及び加工技術の開発	3 ～ 7				
2ウaPF15	外部プロ課題	早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・ 内装材として利用拡大するための技術 開発	4 ～ 6	チーム林業 振興	政府等外 受託【競】	(研)農業・食 品産業技術 総合研究機 構 生物系特 定産業技術 研究支援セ ンター	イノベーション 創出強化研究 推進事業
2エ	戦略課題	木質新素材と木質バイオマスエネルギー の社会実装拡大に向けた研究開発	3 ～ 7				
2Eb	基幹課題	木質バイオマスエネルギーの供給とエネ ルギー利用拡大に向けた技術の開発	3 ～ 7				
2Eb1	実施課題	木質バイオマスエネルギーの利用拡大を 促進する技術の開発	3 ～ 7	北海道支所	交付金	－	－

令和 4 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果

川路則友
(元職員)

[はじめに]

北海道支所実験林(羊ヶ丘実験林)では、平成元年(1989 年)から鳥類標識調査(環境省鳥類標識調査事業、以下、バンディング)を継続して行っている。本調査事業の歴史、意義、成果等については、水田ら(2022)に詳しい。羊ヶ丘実験林における調査結果は、平成 15 年(2004 年)度以降、毎年、北海道支所年報に公表しており、平成 25 年度までに得られた足環回収結果等については、「北の森だより」でも報告した(川路・河原 2013)。実験林での調査期間はすでに通算 30 年以上にも及ぶが、同一調査地におけるこのような長期間のモニタリング結果の蓄積は、将来的に貴重なものになると考えられる。令和 4 年(2022 年)度の調査は、鳥類標識調査協力調査員(バンダー)として登録されている川路則友(元職員)がおもに行った。そのほか、実験林内で独自に鳥類研究を行っている本所鳥獣生態研究室の青木大輔氏、東海大学・松井晋氏による標識調査結果も含めて羊ヶ丘実験林の調査結果として集約、解析等を行った。

以下に、令和 4 年(2022 年)度の結果について詳述する。

[材料と方法]

令和 4 年(2022 年)度は令和 4 年(2022 年)4 月 17 日から 11 月 9 日までの間で合計 82 日間の調査を行った。春秋の渡り期には、おもに実験林内を通過する渡り鳥に、繁殖期には実験林内で営巣する森林性鳥類の巣内ヒナに足環を付け放鳥したほか、定期的に繁殖鳥モニタリング調査を行った。これらは、例年どおりである。

調査には、環境省から鳥類標識調査用の鳥獣捕獲許可証(第 21-03-0438 号)の交付を受け、渡り期のバンディングには実験林内 3 林班、6～8 林班の適当な場所に、捕獲用網(カスミ網 ATX、36 mm メッシュ×12 m、もしくは HTX、30 mm メッシュ×12 m)を時期、天候に応じて 7～

21 枚設置して行った。調査はおもに早朝(日の出時刻前後)から開始し、捕獲効率が低下する(川路 1996)とされる 9:00am ころまでで調査を終えた。網場の見回りは頻繁に行い、捕獲された鳥類への負担が少なくなるように努めた。また足環の装着後、必要に応じて観察、体部計測、撮影等を行ったのち、すみやかに放鳥した。巣内ヒナへのバンディングは、その種の成鳥に付けるものと同じサイズの足環が付けられるほどにじゅうぶん脚部が成長し、しかも巣から強制巣立ちさせることのないタイミングを選んで、さらに巣に捕食者を誘引することのないように注意しながら慎重に行った。使用したカスミ網のサイズ、調査地環境等については、これまでとほぼ同様である(詳しくは河原・川路 2011 参照)。

繁殖鳥モニタリング調査については、羊ヶ丘実験林の 6 林班と 8 林班内に 1 箇所ずつ設けた固定調査地に、それぞれカスミ網(HTX)を 5 枚ずつで合計 10 枚張り、5 月末から 8 月中旬までの期間を 10 日間ずつ 8 つの期に分け、各期で 1 回ずつ合計 8 回の調査を行った。調査は、日の出時刻もしくは午前 4 時のどちらか遅い方の時間に開始して 6 時間、網を開き、約 30 分の間隔で見回りを行った。捕獲した鳥類には、標識調査用の金属製番号付き足環を装着したのち、捕獲時間、網番号を記載し、性、齢を判別、自然翼長、最大翼長および体重を測定、記録した。また脂肪量、抱卵斑の有無、総排泄腔突出具合、換羽状況などの観察、記録を行ったのちに、すみやかに放鳥した。これは、ヨーロッパおよび北米で体系的に行われている繁殖期における標準化された手法によるモニタリングを、我が国でも山階鳥類研究所が 2012 年から全国各地で開始したもので、羊ヶ丘実験林でも 2013 年から参加しているものである。調査手法は、山階鳥類研究所保全研究室作成による繁殖鳥モニタリング調査マニュアル(第 1 版)に従った(千田ら 2017)。

【結果と考察】

令和4年度は、合わせて38種2,734羽(新放鳥2,519羽、再捕獲215羽)を捕獲、放鳥した(表1)。1日あたりの放鳥数は33.3羽であった。

もっとも放鳥数が多かったのは、メジロで515羽(全体の18.8%、新放鳥491羽、再放鳥24羽、以下そのように表記)であった。そのほかに放鳥数合計が100羽を超えた鳥類は、クロツグミ501羽(18.3%、476羽、25羽)、キビタキ468羽(17.1%、439羽、29羽)、ルリビタキ423羽(15.5%、392羽、31羽)、ヤブサメ150羽(5.5%、135羽、15羽)、アオジ142羽(5.2%、124羽、18羽)、ウグイス127羽(4.6%、111羽、16羽)の6種であった。このうち、新放鳥数を昨年度の結果と比較すると、増加したのは、メジロ(+119.2%)、キビタキ(+98.6%)、ヤブサメ(+46.7%)の3種で、逆に減少したのは、アオジ(-56.5%)、ウグイス(-18.4%)、クロツグミ(-16.9%)、ルリビタキ(-10.9%)であった。ヤブサメは昨年度の新放鳥数が100羽を下回ったが、今年度はやや回復傾向を示した。アオジは減少傾向がさらに顕著に見られ、新放鳥数全体に占める割合で見ると、昨年は11.2%であったが、今年は4.9%と非常に小さくなった。

春季の渡りについては、4月下旬～5月初旬にルリビタキの放鳥数が多い傾向が認められ、例年と類似していた。秋季の渡りに関しては、キビタキが8月下旬から9月中旬にかけて、メジロとクロツグミがおもに9月下旬から10月中旬にかけて多く捕獲されるという傾向が認められた。これらは例年の傾向と類似する。一方、アオジは、10月中旬に捕獲数の小さな増加が見られたものの、それでも最大で18羽(10月9日)と例年に比べて非常に少なく、その後もピークが見られることはなかった。今後もアオジの渡り動向を注目する必要がある。

繁殖期における巣内ヒナへのバンディングでは、営巣を確認し、繁殖経過をモニタリングしたコルリ1巣(巣内ヒナ4羽)、ヤブサメ1巣(巣内ヒナ1羽)の合計5羽のヒナに標識を付した。巣内ヒナへのバンディングは、確実に羊ヶ丘実験林で生まれた個体に標識付けをすることで、のちに回収された場合、渡り途中の個体を捕獲しバンディングしたものに比べて、寿命、起始点からの移動

距離、帰還率等をより正確に判断できると期待される。

令和4年度内での標識鳥の再捕獲については、リピート(Rp、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと6ヶ月以内に同地で再捕獲された場合)が158羽と最も多く、リターン(Rt、羊ヶ丘実験林で放鳥したあと6ヶ月以上経過して同地で再捕獲された場合)が53羽であった。また、リカバリ(Rc、羊ヶ丘実験林もしくは5km以上離れた他所で放鳥された個体が5km以上離れた別の場所もしくは羊ヶ丘実験林で再捕獲された場合)が4例であった。

リターン(Rt)記録は、鳥類の寿命とは異なるものの、通常の野外観察では個体識別の困難な野生鳥類の生存期間を知るうえで貴重なデータとなる。新放鳥後3年以上経過して、令和4年度内に再度羊ヶ丘実験林で再び回収されたものは6種12個体あった。新放鳥されてから再捕獲するまでの期間のうち、もっとも長いものを最長生存期間とし、これまで羊ヶ丘実験林で記録された各種、性ごとに最長生存期間を表2に示した。そのうち、令和4年度内に最長生存期間を更新したのは、クロツグミ(オス)の6年1月(2016年4月28日放鳥、2022年5月3日回収)とエナガ(性不明)の4年6月(2017年10月9日放鳥、2022年4月22日回収)の2例であった。

令和4年度中に判明したリカバリ(Rc)記録としては、令和元年(2019年)10月に新潟県関谷海岸で放鳥したウグイス(メス成鳥)が、令和4年5月に羊ヶ丘実験林で回収された例、令和3年10月に羊ヶ丘実験林においてオス幼鳥で放鳥したウグイスが、8km南方に位置する西岡国有林1206林班で約1年後に捕獲回収された例、令和4年9月に羊ヶ丘実験林で放鳥したメジロ(性不明幼鳥)2羽が、同年10月に同じく西岡国有林内で回収された例がある(表3)。

繁殖鳥モニタリング調査では、令和4年(2022年)度の調査期間中に16種129羽が新放鳥もしくはリターン(Rt)回収された(表4)。捕獲総数ではヤブサメとキビタキがもっとも多かったが、キビタキでは幼鳥の割合がかなり高かった。ついでクロツグミ、アオジ、シジウカラが多かった。ヤブサメの捕獲数は2017年以降、徐々に減少し、渡り期を通した全体的な個体数も減少が疑われたが(川路2021)、今年度はやや回復傾向が見られた。しかし、以前の状況に戻るにはまだ

時間がかかると思われ、今後ともモニタリング調査を継続することは重要である。また繁殖鳥モニタリング調査では、まだ全身に幼羽の残る個体も多く捕獲されることから(図 1)、確実に実験林で巣立ったと思われるものとして、巢内ヒナのバンディングと同じく、今後の回収による正確な渡り知見等の収集が期待できる。

なお、令和4年度に実験林内で行ったすべての標識調査結果をまとめるにあたり、本所・青木大輔氏、東海大学・松井晋氏にはそれぞれ7日間ずつのデータを提供いただいた。感謝申し上げます。

[文献]

川路則友(1996) 春の渡り期における林床性鳥類捕獲数の日周変化. 日本鳥学会誌 45(3): 175-182.

川路則友(2021)繁殖鳥モニタリングで見えたもの(札幌・羊ヶ丘の9年間). 2021年度(第35回)日本鳥類標識協会全国大会オンライン大会講演要旨集: 10

川路則友・河原孝行(2013)羊ヶ丘の鳥はどこから来て、どこへ行く? 北の森だより 10: 4-8.

河原孝行・川路則友(2011)平成22年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成23年版森林総合研究所北海道支所年報: 24-30.

水田拓・尾崎清明・澤祐介・千田万里子・富田直樹・仲村昇・森本元・油田照秋(2022)日本の鳥類標識調査—その意義と今後の展望. 山階鳥類学雑誌 54: 71-102

日本鳥学会(2012)日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会. 三田.

千田万里子・仲村 昇・尾崎清明(2017)2012～2016年に福島県で行われた繁殖鳥モニタリング調査の結果報告. 山階鳥類学雑誌 48: 117-129.

表1 令和4年度日別放鳥一覧(その1)

月日	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/24	4/25	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/5	5/6	5/31
天候	C	C	F	F	F	C	F	F	C/F	F	F	F	C	F	C	F	F	C
新放鳥数	1	10	7	15	48	94	43	26	19	22	35	25	29	28	20	40	30	8
再捕獲数(R)	0	0	0	2	3	3	11	7	6	6	7	8	5	5	9	7	5	2
種名/種類数	1	3	4	5	7	13	10	10	7	7	10	8	9	7	9	13	9	4
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N
コガラ																		
オオアカガラ																		
アカガラ											1							
モズ																		
カグス																		
ハシブトガラ			1	1		1	1	1	2	4	2	1		1				
コガラ										1								
ヤマガラ					1							1						
ヒガラ						4	1	1		2	1	3				1	1	
シショウガラ	1	1				3	1						1	1				
ヒヨドリ																		
ウグイス		2		1	1	4	2	1	3	2	1	2	1	1	1	4	1	7
ヤブサメ						4	2	1	2	3	1	2	2	3	1	2	1	6
エサガ						1	1	2					1					
オオムシクイ																		
エゾムシクイ																		
センダイムシクイ									1			2	1	1			1	1
メジロ						1						2	1	1			3	
シマセンニョウ																		
ゴジュウカラ				2		2												
キバシリ					1				1				1		1			
ミソサザイ						4	1		1		1						1	
トラツグミ					1													
クロツグミ						1	1	3	2		1	2			1	2	1	
マミヤシタイ																		
シロハラ																	1	
アカハラ																		
コマドリ							1						1				1	
ノビタ																	1	
コルリ																	1	
ルリビタキ	7		2	1	11	41												
コサメビタキ						64	5	31	4	14	1	8	1	22	3	17	4	11
キビタキ																	3	15
オオルリ																	1	
カワラビロ																		
ヘビマシコ																		
アオジ			2	1	1	1	2	1	2	1	1	2		1		1	2	3
クロジ			2			5	1			1	1	1		2	1	2	8	1

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)に基づいた。天候:F(晴れ)、C(曇り)、R(雨)、S(霧)。放鳥種別:R(再捕獲)、N(新放鳥)。

表1 令和4年度日別放鳥一覧(その2)

月日	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/15	6/20	7/1	7/11	7/21	7/30
天候	C	C	C	C	C	C	C	C	F	F	C/F	C	C	C/F	C	C/F	C	F
新放鳥数	3	3	4	3	3	12	19	4	4	2	15	2	1	3	40	7	10	16
再捕獲数(R)	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	6	1	0	4	8	1	2	3
種名/種類数	2 R N	1 R N	1 R N	1 R N	1 R N	1 R N	1 R N	1 R N	1 R N	3 R N	7 R N	1 R N	1 R N	4 R N	10 R N	4 R N	7 R N	9 R N
コガラ										1								
オオアカガラ																		
アカガラ																		
モズ																		
カケス																		
ハシブトガラ															4			
コガラ																		
ヤマガラ	1																	
ヒガラ																		
シジュウカラ	2		1	1		10	10				2			1	1	8		
ヒヨドリ																		
ウグイス																		7
ヤブサメ											3	2	1	2	5	1	2	1
エナガ																		
オオムシクイ																		
エゾムシクイ																		
センダイムシクイ		3	2	3	3	3	2	2	4		1	1			3		1	1
メジロ											1	2		1	3			
シマセンニュウ											1							
ゴジュウカラ															2			1
キバシリ																		
ミンサザイ																		
トラツグミ																		
クロツグミ										1	1			2	2	3	1	1
マミチャジナイ											5							
シロハラ																		
アカハラ																		
コマドリ																		
ノゴマ																		
コルリ									4								1	2
ルリビタキ																		
コサメビタキ																		1
キビタキ										1	1	2	1	1	5		5	2
オオルリ																		
カワラビロ																		
ベニマシロ																		
アオジ															3	4	1	1
クロジ																	3	1

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)に基づいた。天候: F(晴れ)、C(曇り)、R(雨)、S(霧)。放鳥種別: R(再捕獲)、N(新放鳥)。

表1 令和4年度日別放鳥一覧(その3)

	月日	8/10	8/11	8/21	8/22	8/24	8/26	8/29	9/3	9/5	9/6	9/7	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/16	9/17	9/18	9/21	9/25	9/26	9/28	9/29
天候																										
新放鳥数		8	11	0	57	37	59	56	49	40	30	53	44	30	49	20	38	15	22	24	22	51	78	56	63	71
再捕獲数(R)		1	3	1	2	6	2	2	2	2	1	7	2	3	6	0	3	1	0	2	0	3	1	1	1	1
種名／種類数		5	6	1	9	7	8	5	6	5	5	8	5	7	8	9	8	5	4	7	4	7	11	10	5	10
		R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R
コガラ																										
オオアカガラ																										
アカガラ																										
モズ																										
カクズ																										
ハシブトガラ																										
コガラ																										
ヤマガラ																										
ヒガラ																										
シジュウカラ																										
ヒヨドリ																										
ウグイス																										
セフサメ																										
エナガ																										
オオムクイ																										
エシロムクイ																										
センダイムシクイ																										
メジロ																										
シマセンニョウ																										
ゴジュウカラ																										
エビセリ																										
ミソサザイ																										
トラツグミ																										
クロツグミ																										
マミササニヤイ																										
シロハラ																										
アカハラ																										
コマドリ																										
ノゴマ																										
コルリ																										
ルリビタキ																										
コサメビタキ																										
キビタキ																										
オオルリ																										
カワラビロ																										
ベニマシコ																										
アオジ																										
クロジ																										
種別記																										
種別の日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)による。天候：F(晴れ)、C(曇り)、S(霧)、放鳥種別：R(再捕獲)、N(新放鳥)。																										

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)によった。天候: F(晴れ)、C(曇り)、R(雨)、S(霧)。放鳥種別: R(再捕獲)、N(新放鳥)。

表1 令和4年度日別放鳥一覧(その4)

	月日		82日間																				
	10/1	10/3	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/11	10/12	10/14	10/19	10/21	10/23	10/26	10/28	10/30	11/1	11/2	11/4	11/7	11/9		
天候	F	C	C	F	F	C/F	F	C	F	F	C	F	C/R	F	F	C	C	F	C	F	F		
新放鳥数	47	27	36	85	90	69	103	19	97	56	38	78	8	37	13	15	28	18	14	3	4		
再捕獲数(R)	2	1	2	4	5	9	6	1	2	3	0	2	1	4	0	2	0	0	1	0	1		
種名/種類数	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R		
コガラ																							
オオアカガラ																							
アカガラ																							
モズ	1																						
カクズ				1																			
ハシブトガラ																							
コガラ										1													
ヤマガラ	1																						
ヒガラ																							
シジュウカラ				1																			
ヒヨドリ																							
ウグイス	1	1		7	5	1	2	2	1	5	2	6	1	15		5	1	1	1				
ヤブサメ	1		1	1																			
エナガ																							
オオムシクイ			1																				
モリムシクイ																							
センダイムシクイ																							
メジロ	21	1	8	2	11	16	2	40	4	10	3	30	2	30	2	8	4	1	2	1	6		
シマセンニョウ																							
ゴジュウカラ																							
キバシリ																							
ミンナザイ																							
トラツグミ																							
クロツグミ	1	16	13	21	2	50	27	2	38	2	44	13	37	1	15	10	1	2	1	4	2		
マミチサジナイ																							
シロハラ																							
アカハラ																							
コマドリ	1																						
ノゴマ				1																			
コルリ																							
ルリビタキ																							
ユサメビタキ																							
キヒタキ	3	4		1	1																		
オオルリ																							
カウラビロ																							
ベニマシコ																							
アオジ	2			2	1	2	1	8	2	15	18												
クロジ	1			1	1	5	1	5	2	3	3	1	11	1	10	1	3	1					
種類	38種	2734羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽	215羽		
合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		

種の配列は、基本的に日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)によった。天候:F(晴れ)、C(曇り)、R(雨)、S(霧)。放鳥種別:R(再捕獲)、N(新放鳥)。

表2. これまで羊ヶ丘で記録された各種鳥類の再捕獲までの経過年月

	性	年	月	回収年
ハシブトガラ	メス	9	5	2002
コゲラ	メス	9	0	2008
アオジ	メス	8	7	2003
ハシブトガラ	オス	7	9	2004
アオジ	オス	7	7	2002
コルリ	オス	7	0	2012
ヤマガラ	不明	6	11	2017
アカゲラ	オス	6	8	2001
コルリ	メス	6	1	2018
クロツグミ*	オス	6	1	2022
ハシブトガラ	不明	6	0	2001
オオアカゲラ	オス	6	0	2021
コゲラ	オス	5	11	2012
センダイムシクイ	オス	5	11	2004
キビタキ	オス	5	11	2018
シジュウカラ	オス	5	6	1999
エナガ*	不明	4	6	2022
コガラ	不明	4	3	1992
センダイムシクイ	メス	4	0	2019
クロジ	メス	4	0	2014
キビタキ	メス	4	0	1996
ヤブサメ	オス	4	0	2006
ヒヨドリ	不明	4	0	1993
キジバト	不明	3	11	2007
クロツグミ	メス	3	11	2017
ヤブサメ	メス	3	8	1999
エナガ	オス	3	8	2006
エナガ	メス	3	6	2002
シジュウカラ	メス	3	6	1994
オオアカゲラ	メス	3	2	2013
アカゲラ	メス	3	2	2010
ウグイス	オス	3	1	2007
ヒガラ	オス	3	1	2002
ヤブサメ	不明	3	0	2013
ウグイス	メス	3	0	2010
キバシリ	オス	3	0	2004

*令和4年度にあらたに最長生存記録が更新された種

表3. 令和4年度中に判明した標識個体の移動回収

種名	足環番号	性齢	放鳥日 回収日	放鳥場所 回収場所	経過日数	距離
ウグイス	1H-85291	メス成鳥 メス成鳥	20191017 20220506	新潟県新潟市中央区浜浦関屋海岸 森林総合研究所北海道支所実験林	567日	509km
ウグイス	2AM-93746	オス幼鳥 オス成鳥	20211005 20221008	森林総合研究所北海道支所実験林 札幌市豊平区西岡国有林1206林班	369日	8km
メジロ	1J-56767	性不明幼鳥 性不明幼鳥	20220928 20221008	森林総合研究所北海道支所実験林 札幌市豊平区西岡国有林1206林班	10日	8km
メジロ	1J-56768	性不明幼鳥 性不明幼鳥	20220928 20221008	森林総合研究所北海道支所実験林 札幌市豊平区西岡国有林1206林班	10日	8km

表4. 令和4年度繁殖鳥モニタリング調査結果

2022	オス成鳥			メス成鳥			性不明成鳥			幼鳥			合計	
	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥	再放鳥 (Rt)	再放鳥 (Rp)	新放鳥 +Rt	Rp
ヤブサメ	12		6	2		2				8			22	8
キビタキ	2			3						17			22	0
クロツグミ	4	2	4	2	2					2			12	4
アオジ	1	4	1	3	2					2			12	1
シジュウカラ	1	1		2						8			12	0
ウグイス	1			2		1				8			11	1
センダイムシクイ	1			3		1				3			7	1
メジロ	1			4						2			7	0
クロジ	1									5			6	0
コルリ				1						4			5	0
ハシブトガラ				2						2			4	0
ゴジュウカラ				1						2			3	0
ヤマガラ	1									2			3	0
エゾムシクイ	1												1	0
コサメビタキ				1									1	0
シマセンニュウ							1						1	0
	26	7	11	26	4	4	1	0	0	65	0	0	129	15



図1. コルリ(オス幼鳥)(2AM69117, 2022年7月30日捕獲)

III. 広報活動

北海道地域一般公開

名称： 令和4年度北海道地域一般公開

配信： 令和4年8月1日(月)～8月31日(水)の期間について森林総合研究所北海道支所ホームページに作成した特設ページにおいて公開

共催： 森林総合研究所北海道支所、森林総合研究所林木育種センター北海道育種場、森林整備センター東北北海道整備局札幌水源林整備事務所

概要： 新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年度に引き続き北海道支所ホームページ上に公開期間限定(31日間)の特設ページを開設し、北海道支所のウェブ版樹木園ガイド、北海道育種場および林木育種センターの要覧、北海道水源林整備事務所の水源林造成事業に関する説明写真を掲載し、ウェブ版での共催とした。

2022/07/13 8:23

森林総合研究所 北海道支所／令和4年度北海道地域一般公開

植物（黄色番号）

1. [サクラの病害](#)
2. [ミズナラ](#)
3. [オオヤマレンゲ](#)
4. [カツラ](#)
5. [シラカンバ](#)
6. [シラカンバの利用](#)
7. [ササの花が咲く決定的瞬間をスクープ！](#)
8. [ササの葉の中には宝石がいっぱい！？](#)
9. [トドマツのマツボックリは落ちてこない](#)
10. [アカエゾマツの未成熟種子も食べられていた](#)
11. [標本館の材鑑標本](#)
12. [紅葉の裏側](#)



<https://ncms.affrc.go.jp/cms8341/admin/page/common/preview.php>

2/4

北海道地域一般公開 Web 版の樹木園ガイドマップ

北海道地域研究成果発表会

名称： 令和4年度 北海道地域研究成果発表会

日時： 令和5年2月13日(月) 13:30～15:45

会場： 共済ホール(札幌市中央区北4条西1丁目1)

共催： 森林総合研究所北海道支所、森林総合研究所林木育種センター北海道育種場、森林整

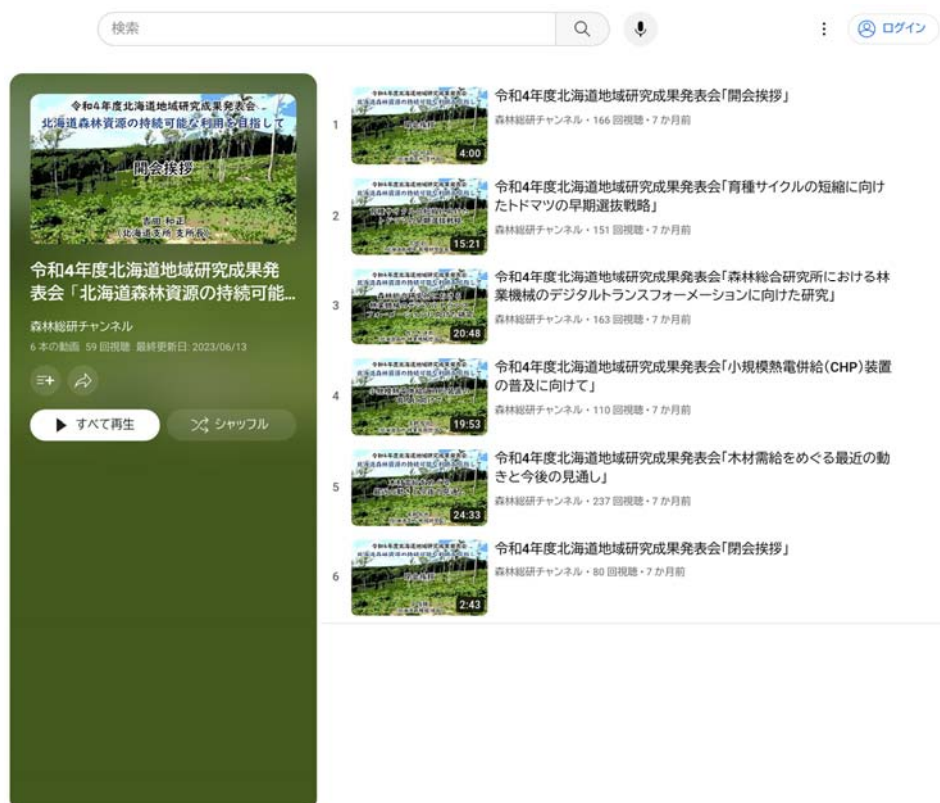
備センター東北北海道整備局北海道水源林整備事務所

発表課題：

- (1) 「育種サイクルの短縮に向けたトドマツの早期選抜戦略の構築」
花岡 創(北海道育種場 育種研究室長)
- (2) 「森林総合研究所における林業機械のデジタルトランスフォーメーションに向けた研究」
佐々木達也(北海道支所 林業機械担当チーム長)
- (3) 「小規模熱電併給(CHP)装置の普及に向けて」
天野智将(北海道支所 林業振興担当チーム長)
- (4) 「木材需給をめぐる最近の動きと今後の見通し」
嶋瀬拓也(北海道支所 地域研究監)

事業紹介ポスター： 森林整備センター北海道水源林整備事務所

概要： 令和5年2月13日(月)に共済ホールを会場として、北海道支所、北海道育種場、北海道水源林整備事務所の共催により「北海道森林資源の持続可能な利用を目指して」と題して北海道地域研究成果発表会を開催した。4 件の研究成果を発表し、各発表について質疑応答を行った。会場において行った講演を録画し、YouTube 森林総研チャンネルにおいて動画を配信した。また、講演内容については『北の森だより』Vol.30 に掲載した。



YouTube 森林総研チャンネルにおける北海道地域研究成果発表会動画配信

国立研究開発法人森林研究・整備機構
令和4年度北海道地域研究成果発表会

北海道森林資源の持続可能な 利用を目指して

日時 令和5年2月13日(月)
13時30分～15時45分

会場 共済ホール(共済ビル6F)
札幌市中央区北4条西1丁目1



- 13:30～13:35 開会挨拶 森林総合研究所北海道支所長
- 13:35～14:00 「育種サイクルの短縮に向けたトドマツの早期選抜戦略の構築」
花岡 創(林木育種センター北海道育種場 育種研究室長)
- 14:00～14:25 「森林総合研究所における林業機械のデジタルトランスフォーメーションに向けた研究」
佐々木達也(森林総合研究所北海道支所 林業機械担当チーム長)
- 14:25～14:50 休憩
- 14:50～15:15 「小規模熱電併給(CHP)装置の普及に向けて」
天野智将(森林総合研究所北海道支所 林業振興担当チーム長)
- 15:15～15:40 「木材需給をめぐる最近の動きと今後の見通し」
嶋瀬拓也(森林総合研究所北海道支所 地域研究監)
- 15:40～15:45 閉会挨拶 林木育種センター北海道育種場長

国立研究開発法人森林研究・整備機構



森林総合研究所北海道支所
森林総合研究所林木育種センター
北海道育種場



森林整備センター東北北海道整備局
北海道水源林整備事務所

令和4年度北海道地域研究成果発表会プログラム

IV. 令和4年度研究業績

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
嶋瀬拓也	2022. 03.	歴史から見通すこれからの木材マーケット	森林・林業技術シンポジウム、55:1-6
橋本昌司、小松雅史、今村直広、大橋伸太、加藤弘亮(筑波大学)、仁科一哉(国立環境研究所)、田上恵子(量子科学技術研究開発機構)、内田滋夫(量子科学技術研究開発機構)、George Shaw(ノッティンガム大学)、Mike Wood(サルフォード大学)、Nick Beresfort(サルフォード大学)、Brenda J. Howard(英国生態学水文学研究センター)、Sergey Fesenko(ロシア放射線・農業生態学研究所)、Yves Thiry(フランス放射性廃棄物管理機関)	2022. 03.	福島第一原子力発電所事故後の日本における放射性核種の環境中の移行 第5章:森林生態系	国際原子力機関 技術報告書シリーズ IAEA-TECDOC-1927、和訳、 http://www.ffpri.affrc.go.jp/rad/pubs.html
酒井敦、Arbain(東クタイ農科大学)、Sugiarto(東クタイ農科大学)、Kusuma Rahmawati(インドネシア科学院)、Edi Mirmanto(インドネシア科学院)、高橋正義、上田明良	2022. 03.	Composition and diversity of tree species after fire disturbance in a lowland tropical forest in East Kalimantan, Indonesia.(インドネシア東カリマンタン低地熱帯林における火災攪乱後の樹種構成と多様性)	Biodiversitas、23(3):1576-1587
久保山裕史、吉田貴紘、横田康裕、天野智将、小谷英司、北原文章、柳田高志、古俣寛隆(地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場)、大塚生美、堀靖人	2022. 04.	宮古市受託研究報告書	宮古市受託研究報告書、157pp
KIKUCHI Satoshi(菊地賢)、MIMURA Makiko(三村真紀子・岡山大学)、NARUHASHI Naohiro(鳴橋直弘・大阪市立自然史博物館)、SUZUKI Setsuko(鈴木節子)、SUZUKI Wajiro(鈴木和次郎・只見町ブナセンター)	2022. 04.	Phylogenetic inferences using nuclear ribosomal ITS and chloroplast sequences provide insights into the biogeographic origins, diversification timescales and trait evolution of Rubus in the Japanese Archipelago.(核ITS領域および葉緑体遺伝子配列に基づく系統解析による、日本産キイチゴ属の生物地理学的起源、多様化の歴史および形質進化の解明)	Plant Systematics and Evolution、308:20
上田明良、伊東宏樹、金谷整一	2022. 04.	Influence of clear-cutting, strip cutting, and logging to construct strip roads on necrophagous silphid and dung beetle assemblages in a conifer plantation.(針葉樹植林地における皆伐、帯状伐採および作業道敷設に伴う伐採が腐肉食性シデムシ・糞虫の群集に与える影響)	Journal of Forest Research、27(6):450-459、 https://doi.org/10.1080/13416979.2022.2062814

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
菅井徹人、横山聡子(北海道大学農学部造林学研究室)、玉井裕(北海道大学農学部林産製造学研究室)、森紘隆(北海道大学農学部林産製造学研究室)、Enrico Marchi(フィレンツェ大学)、渡部敏裕(北海道大学農学部作物栄養学研究室)、佐藤冬樹(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)、小池孝良(北海道大学農学部作物栄養学研究室)	2022. 04.	Effects of soil compaction on the seedling growth and ectomycorrhizal fungal community in hybrid larch(土壌の締め固めがグイマツ雑種苗木の成長と外生菌根菌叢に与える影響)	Eurasian Journal of Forest Research、22:78-80
池田敬(岐阜大学)、松浦友紀子、高橋裕史	2022. 04.	台風による大規模風倒地がニホンジカの生息状況に与える可能性:北海道支笏湖畔における調査結果	野生生物と社会、10:11-15
山口岳広	2022. 04.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 17 アミヒラタケ	北方林業、73(2):53
上田明良、伊東宏樹、金谷整一	2022. 04.	Influence of clear-cutting, strip cutting, and logging to construct strip roads on necrophagous silphid and dung beetle assemblages in a conifer plantation.(針葉樹植林地における皆伐、帯状伐採および作業道敷設に伴う伐採が腐肉食性シデムシ・糞虫の群集に与える影響)	Journal of Forest Research、27(6):450-459、 https://doi.org/10.1080/13416979.2022.2062814
石橋聰	2022. 04.	足寄森林施業実験地	北方林業、73(2):44-46
志知幸治、池田重人、岡本透、菊地賢、内山憲太郎、中野陽介(只見町ブナセンター)	2022. 05.	沼ノ平地域の古環境－花粉分析に基づいて－	只見の自然 只見町ブナセンター紀要、10:17-27
KOSAKA Hajime(小坂 肇)、SAYAMA Katsuhiko(佐山勝彦)、KANZAKI Natsumi(神崎 菜摘)、TAKAHATA Yoshihiro(高畑義啓)、MAKINO Shun'ichi(牧野 俊一・森林総研非常勤職員)	2022. 05.	Host range and geographical distribution of Sphaerularia vespae, the nematode parasite of queen hornets.(スズメバチ女王の寄生線虫であるスズメバチタマセンチュウの宿主範囲と地理的分布)	Book of Abstracts、International Congress of Nematology、7:738
IMAMURA Naohiro(今村直広)、Kunyang Wang(王昆陽・広島大学)、ONODERA Shinichi(小野寺真一・広島大学)、SHIMIZU Yuta(清水裕太・農研機構)、KOBAYASHI Masahiro(小林政広)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)、TSURITA Tatsuya(釣田 竜也・農林水産技術会議)、YAMASHITA Naoyuki(山下尚之)	2022. 05.	Simulation of Suspended Sediment yields in forested head-watershed at Ibaraki Prefecture by using SWAT(SWATを用いた茨城県の森林源頭流域における土砂流出量の再現)	日本地球惑星科学連合大会(2022)、AHW24-20
小長谷啓介、木下晃彦	2022. 05.	日本の森林に発生するトリュフと菌根(表紙写真・解説)	森林防疫、71(3):1-2

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
小長谷啓介、仲野翔太(ホクト株式会社)、中村慎崇、木下晃彦、古澤仁美、野口享太郎、山中高史	2022. 05.	国産トリュフの栽培に向けた最近の研究動向	森林防疫、71(3):3-12
NAKANO Shota(仲野翔太・ホクト産業株式会社)、 OBASE Keisuke(小長谷啓介)(筆頭者同等) 、NAKAMURA Noritaka(中村慎崇)、KINOSHITA Akihiko(木下晃彦)、KURODA Katsushi(黒田克史)、YAMANAKA Takashi(山中高史)	2022. 05.	Mitospore formation on pure cultures of <i>Tuber japonicum</i> (Tuberaceae, Pezizales) in vitro.(インビトロ条件下におけるホンセイヨウショウロ(セイヨウショウロ科、チャワンタケ目)純粋培養株の栄養胞子形成)	Mycorrhiza、32(3-4):353-360
津山幾太郎、石橋聡、嶋瀬拓也	2022. 06.	地がきカンバ林の施業適地を予測しマップ化する	森林総合研究所研究成果選集 2022(令和4年版)、18-19
横田康裕、天野智将、垂水亜紀、早船真智、北原文章	2022. 06.	小型ガス化熱電併給装置向け燃料チップの乾燥体制	日本森林学会誌、104(3):127-138
伊東宏樹、倉本恵生、石橋聡、山崎孝一(北海道森林管理局)、谷村亮(北海道森林管理局森林技術・支援センター)	2022. 06.	北海道の針広混交林における択伐後の更新補助作業の効果	森林総合研究所研究報告、21(2):145-151
石塚航(道総研)、北村系子、原登志彦(北大)、後藤晋(東大)	2022. 06.	Characterization of the complete chloroplast genome of <i>Abies sachalinensis</i> and its intraspecific variation hotspots.(トドマツ葉緑体ゲノム全配列と種内変異)	Journal of Forest Research、27(6):476-482、 https://doi.org/10.1080/13416979.2022.2081294
平田晶子、小南裕志、大橋春香、津山幾太郎、田中信行(東京農大、環境コンサルタントENVI)、中尾勝洋、脇岡靖明(国立環境研究所)、松井哲哉	2022. 06.	Global estimates of stress-reflecting indices reveal key climatic drivers of climate-induced forest range shifts.(気候ストレス指数の全球推定により気候変動にともなう森林分布域の変化の主要ドライバーを明らかにする)	Science of the Total Environment、824:153697
津山幾太郎、石橋聡、嶋瀬拓也	2022. 06.	地がきカンバ林の施業適地を予測しマップ化する	森林総合研究所研究成果選集 2022(令和4年版)、18-19

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、AGATHOKLEOUS Evgenios(エフゲニオスアガトクレウス・南京信息工程大学)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、KITAOKA Satoshi(北岡哲・北海道大学)、UEMURA Akira(上村章)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)	2022. 06.	Tolerance of Japanese larch to drought is modified by nitrogen and water regimes during cultivation of container seedlings.(カラマツコンテナ苗の乾燥耐性は栽培時の水と窒素処理により変化する)	European Journal of Forest Research、141(4):699-712、 https://doi.org/10.1007/s10342-022-01470-8
佐藤保、今村直広、宮本和樹、戸田美紀(森林総研PD)	2022. 06.	ペルー山岳地域での森林火災の発生傾向 〜クスコ、アプリマック、プーノ各州での統計データによる分析〜	日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集、32:42(B17)
篠宮佳樹、小林政広、伊藤優子、大貫靖浩、坪山良夫、澤野真治	2022. 06.	作業道作設を伴う間伐実施中の渓流水の懸濁物質濃度の定期調査	森林総合研究所研究報告、21(2):103-112
MATSUURA Yukiko(松浦友紀子)	2022. 06.	Reproductive Variation of Sika Deer(ニホンジカの繁殖特性)	Sika Deer: Life History Plasticity and Management(Springer Singapore、641頁)、99-107
松浦友紀子	2022. 06.	殺して活かす、ニホンジカ	季刊森林総研、57:18
田中(小田)あゆみ(信州大学)、野口享太郎、古澤仁美、木下晃彦、中野翔太(ホクト株式会社)、小長谷啓介、水谷和人(岐阜県森林研究所)、柴田尚(山梨県森林総合研究所)、山中高史	2022. 06.	石灰施肥がクリ園における細根成長速度、細根形態と外生菌根形成に与える影響	根の研究、31:61-69

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
上田明良、ディアン・ドウィバドラ(インドネシア科学院生物学研究所)、シ・カホノ(インドネシア科学院生物学研究所)、スギアルト(東クタイ農科大学)、越智輝雄(大阪府豊能町)、近雅博(京都市)	2022. 06.	Atlas of dung beetles collected in the Sungai Wain Protection Forest and its surroundings in the lowlands of Borneo.(ボルネオ島低地のスンガイワイン保護林とその周辺で捕獲された糞虫の図鑑)	森林総合研究所研究報告、21(2):165-192
ITO Eriko(伊藤江利子)、 FURUYA Naoyuki(古家直行) 、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、MIYAMOTO Kazuki(宮本和樹)、ARAKI Makoto(荒木誠)、TAMAI Koji(玉井幸治)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、IIDA Shin'ichi(飯田真一)、KANZAKI Mamoru(神崎護・京都大)、MONDA Yukako(門田有佳子・京都大)、KABEYA Naoki(壁谷直記)、SHIMIZU Akira(清水晃)、TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)、Bora Tith((カンボジア森林局)、Samkol Keth(カンボジア森林局)、Chandararity Ly(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth Op(カンボジア森林局)、Sophal Chann(カンボジア森林局)、KIYONO Yoshiyuki(清野嘉之・元森林総研職員)	2022. 06.	Topographical patterns of species composition in a deciduous dipterocarp forest in Kratie Province, Cambodia.(カンボジアクラティエ州の落葉フタバガキ林における種組成の地形パターンについて)	Cambodian Journal of Natural History、2022(1):18-37
TATSUMI Shinichi(辰巳晋一) 、YAMAGUCHI Keiji(山口圭司・株式会社マプリィ)、 FURUYA Naoyuki(古家直行)	2022. 06.	ForestScanner: A mobile application for measuring and mapping trees with LiDAR-equipped iPhone and iPad(ForestScanner: LiDAR搭載iPhone・iPadを使って樹木測定およびマッピングするための携帯アプリケーション)	Methods in Ecology and Evolution、14(7)、 https://doi.org/10.1111/2041-210X.13900
津山幾太郎、石橋聡、嶋瀬拓也	2022. 06.	地がきカンバ林の施業適地を予測しマップ化する	森林総合研究所研究成果選集 2022(令和4年版)、18-19
伊東宏樹、倉本恵生、石橋聡、山崎孝一(北海道森林管理局)、谷村亮(北海道森林管理局森林技術・支援センター)	2022. 06.	北海道の針広混交林における択伐後の更新補助作業の効果	森林総合研究所研究報告、21(2):145-151

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
OHASHI Shinta(大橋伸太)、KURODA Katsushi(黒田克史)、ABE Hisashi(安部久)、KAGAWA Akira(香川聡)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、SUGIYAMA Masaki(杉山真樹)、SUZUKI Youki(鈴木養樹)、FUJIWARA Takeshi(藤原健)、TAKANO Tsutomu(高野勉)	2022. 07.	Decadal trends in ¹³⁷ Cs concentrations in the bark and wood of trees contaminated by the Fukushima nuclear accident.(福島原発事故で汚染された樹木の樹皮および木材中の ¹³⁷ Cs濃度の10年間の変化傾向)	Scientific Reports、12:11243、 https://doi.org/10.1038/s41598-022-14576-1
MORI Hideki(森英樹)、UENO Saneyoshi(上野真義)、IHARA Tokuko(伊原徳子)、FUJIWARA Takeshi(藤原健)、YAMASHITA Kana(山下香菜)、KANETANI Seiichi(金谷整一)、ENDO Ryota(遠藤良太・千葉県農林総研森林研)、MATSUMOTO Asako(松本麻子)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、YOSHIDA Takahiro(吉田貴紘)、SAKAI Yoshimi(酒井佳美)、MORIGUCHI Yoshinari(森口喜成・新潟大)、KUSANO Ryouichi(草野僚一・熊本県北広域本部)、TSUMURA Yoshihiko(津村義彦・筑波大)	2022. 07.	Genotype-by-environment interaction and genetic dissection of heartwood color in <i>Cryptomeria japonica</i> based on multiple common gardens and quantitative trait loci mapping.(複数の産地試験地と量的形質遺伝子座マッピングに基づくスギの心材色における遺伝-環境相互作用と遺伝学的解剖)	PLoS ONE、17(7):e0270522
嶋瀬拓也	2022. 07.	道内木材市場レポート・2021年新型コロナウイルス感染症とウッドショックが北海道の木材産業に与えた影響	北方林業、73(3):129-132
中澤昌彦、鈴木秀典、佐々木達也、吉田智佳史、上村巧、瀧誠志郎、大矢信次郎(長野県林業総合センター)、赤松玄人(長野森林組合)、伊東大介(長野森林組合)	2022. 07.	フェラーバンチャ機構付きバケットを搭載した車両系林業機械による広葉樹の伐出生産性	森林利用学会誌、37(3):149-154
菊地賢	2022. 07.	日本の森林樹木の地理的遺伝構造(37)オオヤマレンゲ(モクレン科モクレン属)	森林遺伝育種、11(3):143-148
伊東宏樹、関剛、中西敦史	2022. 07.	シラカンバ若齢一斉林の間伐試験	北の森だより、28:4-5
伊東宏樹、関剛、中西敦史	2022. 07.	シラカンバ若齢一斉林の間伐試験	北の森だより、28:4-5

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
Prasetyo Eko(ガジャマダ大)、Setiawan Fajar(インドネシア科学研究所)、WIDIYATNO(ガジャマダ大)、Na'iem Mohammad(ガジャマダ大)、OHASHI Haruka(大橋春香)、TSUMURA Yoshihiko(津村義彦、筑波大)、TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)	2022. 07.	Predicting Tectona grandis Suitability to Evaluate Potential Plantation Areas under Future Climate on Java, Indonesia. (インドネシア・ジャワ島における将来気候下での植林候補地評価のためのチェック (Tectona grandis)適合性の予測)	JARQ-Japan Agricultural Research Quarterly, 56(3):269-281
伊東宏樹、関剛、中西敦史	2022. 07.	シラカンバ若齢一斉林の間伐試験	北の森だより、28:4-5
NAGAI Satoshi(永井智・兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)、YAZAKI Kenich(矢崎健一)、UTSUMI Yasuhiro(内海泰弘・九州大学)	2022. 07.	Heartwood formation progresses basipetally over years or decades in each conically shaped annual growth layer of Cryptomeria japonica stems. (スギ樹幹内の個々の円錐状成長層では頂部から基部へと数年から数十年をかけて心材化する)	Trees-Structure and Function, 36:1853-1863、 https://doi.org/10.1007/s00468-022-02333-w
山口岳広	2022. 07.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 18 エゾサルノコシカケ	北方林業、73(3):61
古家直行	2022. 07.	無人航空機を活用した森林資源情報の取得	北方林業、73(3):28-32
中西敦史	2022. 08.	カツラの種子と花粉を介した遺伝子散布	北の国・森林づくり技術交流発表集(令和3年度)、103-107
TANEDA Haruhiko(種子田春彦・東京大学)、OGASA Mayumi Y(小笠真由美)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、FUNAYAMA-NOGUCHI Sachiko(舟山(野口)幸子・東京大学)、MIYAZAWA Yoshiyuki(宮沢良行・九州大学)、Stefan Mayr(インスブルック大学)、MARUTA Emiko(丸田恵美子・神奈川大学)	2022. 08.	Impact of freeze-thaw-induced pit aspiration on stem water transport in the subalpine conifer Abies veitchii. (亜高山帯針葉樹シラビソの凍結-融解による壁孔閉鎖が幹の水輸送に及ぼす影響)	Plant Physiology, 190(3):1687-1698

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
MANAKA Takuya(真中卓也)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、SAKASHITA Wataru(坂下渉)、 IMAMURA Naohiro(今村直広) 、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、HIRAI Keizo(平井敬三)、MIURA Satoru(三浦覚)、KANEKO Shinji(金子真司)、SAKATA Tadashi(阪田匡司)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)	2022. 08.	Ten-year trends in vertical distribution of radiocesium in Fukushima forest soils, Japan.(福島の森林土壌における放射性セシウムの鉛直分布の10年間の変動)	Journal of Environmental Radioactivity、 https://doi.org/10.1016/j.jenvrad.2022.106967
AMANO Hitoha E.(天野一葉・琵琶湖博物館)、 ISHIBAH I Yasuyuki(石橋靖幸) 、TOJO Hitoshi(東條一史)、NAKAMURA Syuya(中村秀哉・常盤大学)	2022. 08.	Invasive bird management: Development of eradication management units for the Red-billed Leiothrix in Japan based on genetic information.(外来鳥類管理:遺伝情報に基づく国内ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定)	International Ornithological Congress 2022 ABSTRACT BOOKLET、:190
小田中温(酪農大)、菊地静香(酪農大)、福島那月(酪農大)、伊藤哲治(酪農大)、 石橋靖幸 、佐藤喜和(酪農大)	2022. 08.	分布周縁部における駆除効果と個体群の空間遺伝構造に与える影響	日本哺乳類学会大会講演要旨集(2022)、:95(P-31)
OBASE Keisuke(小長谷啓介) 、KITAGAMI Yudai(北上雄大・三重大学)、TANIKAWA Toko(谷川東子・名古屋大学)、CHEN Chien-Fan(台湾林業研究所)、MATSUDA Yosuke(松田陽介・三重大学)	2022. 08.	Community assemblages of rhizosphere bacteria and fungi along with environmental gradients in Cryptomeria japonica plantations, in Japan and Taiwan.(日本と台湾における環境勾配に応じた根圏微生物の群集集合)	AMC 2021 Book of Abstracts(アジア菌学会)、:277
OBASE Keisuke(小長谷啓介) 、 YAMANAKA Satoshi(山中聡) 、YAMANAKA Takashi(山中高史)、 OZAKI Kenichi(尾崎研一)	2022. 08.	Short-term effects of retention forestry on the diversity of root-associated ectomycorrhizal fungi in Sakhalin fir plantations, Hokkaido, Japan.(日本の北海道のトドマツ人工林における保残伐施業が菌根菌の多様性に及ぼす短期的な影響)	International Conference on Mycorrhiza 11 (ICOM11) Abstract book、:163
YUSTIKASARI Linda(三重大学)、KITAGAMI Yudai(北上雄大・三重大学)、TANIKAWA Toko(谷川東子・名古屋大学)、 OBASE Keisuke(小長谷啓介) 、CHEN Chien-Fan(台湾林業研究所)、MATSUDA Yosuke(松田陽介・三重大学)	2022. 08.	Genetic diversity of arbuscular mycorrhizal fungi associated with planted Japanese cedar trees along a latitudinal gradient.(緯度勾配に応じたスギと共生する菌根菌の遺伝的な多様性)	International Conference on Mycorrhiza 11 (ICOM11) Abstract book、:192

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
石塚成宏、平井敬三、相澤州平、川西あゆみ(森林総研非常勤職員)、稲富素子(農研機構)、小林政広、古澤仁美、今矢明宏、山田毅、酒井寿夫、橋本徹、野口享太郎、岡本透、稲垣昌宏、酒井佳美、橋本昌司、山下尚之、鳥山淳平	2022. 09.	森林土壌インベントリ事業第三期の結果について	日本土壌肥科学会講演要旨集、68:120(P8-2-10)
小野賢二、安田幸生、橋本徹、星野大介、森下智陽	2022. 09.	ブナ壮齢二次林における食害や結実豊凶は年間土壌呼吸量に影響したか？	日本土壌肥科学会講演要旨集、68:1-1-13
毛綱昌弘、山口浩和、佐々木達也、原山尚徳、宇都木玄、菅野賢一(ソフトバンク)	2022. 09.	四脚歩行ロボットSpotの再造林地における歩行性能の検証	日本ロボット学会学術講演会、40:RSJ2022AC2H3-08
志知幸治、池田重人、岡本透、菊地賢、内山憲太郎、中野陽介(只見町役場)	2022. 09.	福島県只見地域における地すべり後に生じた植生変遷	日本花粉学会大会講演要旨集、63:35
深谷肇一(国立環境研究所)、伊東宏樹	2022. 09.	生態学における階層モデルの応用	統計関連学会連合大会(2022)、0APM2
北村系子、松井哲哉、小林誠(十日町市)、並川寛司(北教大)	2022. 09.	A comprehensive overview of studies related to the ecology and genetics of <i>Fagus crenata</i> Blume (Siebold's beech; Japanese beech) at the species' northernmost range limit.(北限のブナの生態と遺伝に関する研究の総説)	Ecological Research、 https://doi.org/10.1111/1440-1703.12356
成田あゆ(北海道大学低温科学研究所)、小野清美(北海道大学低温科学研究所)、高林厚史(北海道大学低温科学研究所)、菅井徹人、北尾光俊、田中亮一(北海道大学低温科学研究所)	2022. 09.	常緑針葉樹4種における冬季の光合成色素・光化学系タンパク質の変動	日本植物学会大会研究発表記録、86:196(2aAJ02)

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、Taku Tanaka(フランス電力)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、Marc-Andre#769; Gonze(フランス放射線防護原子力安全研究所)、SAKASHITA Wataru(坂下渉)、KURIKAMI Hiroshi(操上広志・原子力研究開発機構)、NISHINA Kazuya(仁科一哉・国環研)、OTA Masakazu(太田雅和・原子力研究開発機構)、OHASHI Shinta(大橋伸太)、Philippe Calmon(フランス放射線防護原子力安全研究所)、Frederic Coppin(フランス放射線防護原子力安全研究所)、 IMAMURA Naohiro(今村直広) 、HAYASHI Seiji(林誠二・国環研)、HIRAI Keizo(平井敬三)、Pierre Hurtevent(フランス放射線防護原子力安全研究所)、KOARASHI Jun(小嵐淳・原子力研究開発機構)、MANAKA Takuya(真中卓也)、MIURA Satoru(三浦寛)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)、George Shaw(ノッティンガム大学)、Yves Thiry(放射性廃棄物管理公社)	2022. 09.	Dynamics of radiocaesium in forests deposited by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident—long-term monitoring and modelling approaches(福島第一原子力発電所事故で降下した放射性セシウムの森林の中での動態ー長期モニタリングとモデリング)	International Conference on Radioecology & Environmental Radioactivity、5:6
成田あゆ(北海道大学低温科学研究所)、小野清美(北海道大学低温科学研究所)、高林厚史(北海道大学低温科学研究所)、 菅井徹人 、 北尾光俊 、田中亮一(北海道大学低温科学研究所)	2022. 09.	常緑針葉樹4種における冬季の光合成色素・光化学系タンパク質の変動	日本植物学会大会研究発表記録、86:196(2aAJ02)
小南裕志、平田晶子、勝島隆史、北村兼三、松井哲哉、深山貴文、 溝口康子 、森下智陽、清水貴範、高梨聡、安田幸生、吉藤奈津子、平田竜一(国環研)、高橋善幸(国環研)、石戸谷重之(産総研)、前田高尚(産総研)、村山昌平(産総研)、齋藤拓(岐阜大学)、深澤遊(東北大学)、高木正博(宮崎大学)、鈴木智之(東京大学)、竹本周平(東京大学)	2022. 09.	New scheme for estimation of spatio-temporal forest Carbon budget in Japan.(日本の森林の炭素収支の時空間変動を把握する新しい枠組み)	AsiaFlux 2022 Book of Abstracts、76
TESHIMA Nanoka(手島菜花・北海道大学)、KAWAMURA Kazuhiro(河村和洋)(筆頭者同等)、AKASAKA Takumi(赤坂卓美・帯広畜産大学)、 YAMANAKA Satoshi(山中聡) 、NAKAMURA Futoshi(中村太士・北海道大学)	2022. 09.	The response of bats to dispersed retention of broad-leaved trees in harvested conifer plantations in Hokkaido, northern Japan.(北海道の針葉樹人工林の伐採地における広葉樹の分散保持に対するコウモリ類の応答)	Forest Ecology and Management、519:120300
石橋聡 、古家直行、鷹尾元、高橋正義、佐々木尚三	2022. 09.	北海道東部弟子屈天然林における長期林分成長モニタリング	森林総合研究所研究報告、21(3):239-245

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
TATSUMI Shinichi (辰巳晋一)、IRITANI Ryosuke(入谷亮介・理化学研究所THEMS)、Marc W. Cadotte(トロント大学)	2022. 09.	Partitioning the temporal changes in abundance-based beta diversity into loss and gain components(優占度に基づくベータ多様性の時間変化を減少・増加成分へと分解する)	Methods in Ecology and Evolution、13(9):2042-2048、 https://doi.org/10.1111/2041-210X.13921
石橋聰、古家直行、鷹尾元、高橋正義、佐々木尚三	2022. 09.	北海道東部弟子屈天然林における長期林分成長モニタリング	森林総合研究所研究報告、21(3):239-245
横田康裕、天野智将、垂水亜紀、北原文章、早船真智	2022. 10.	小型ガス化熱電併給装置向けの燃料チップ人工乾燥体制	森林総合研究所九州支所年報(令和4年版)、34:23-24
今村直広、相澤州平、田中永晴、高橋正通、橋本徹、梅村光俊	2022. 10.	札幌近郊の森林における溪流水質の特徴	生物地球化学研究会現地セッション(2022)、A15
山口浩和、毛綱昌弘、佐々木達也、原山尚徳、宇都木玄、菅野賢一((株)ソフトバンク)	2022. 10.	4脚歩行ロボットによる林地自動歩行の精度	森林利用学会学術研究発表会講演要旨集、29:14
勝木俊雄、秋庭満輝、高畑義啓	2022. 10.	虹の松原におけるクロマツの幹折損の原因	樹木医学研究、26(4):200-204
北尾光俊	2022. 10.	大気環境の変化が樹木の成長に与える影響	北方林業、73(4):199-202
AGATHOKLEOUS Evgenios(エフゲニオス・ガトクレウス・南京信息工程大学)、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2022. 10.	Testing phaeophytinization as an index of ozone stress in trees.(フェオフィチン化を樹木のオゾンストレス指標とする試み)	Journal of Forestry Research、34:1167-1174、 https://doi.org/10.1007/s11676-022-01556-4
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、AGATHOKLEOUS Evgenios(エフゲニオス・ガトクレウス・南京信息工程大学)、KISHIMOTO Junko(岸本純子・北海道大学)、TAKABAYASHI Atsushi(高林厚史・北海道大学)、TANAKA Ryouichi(田中亮一・北海道大学)	2022. 10.	Exposure to strong irradiance exacerbates photoinhibition and suppresses N resorption during leaf senescence in shade-grown seedlings of fullmoon maple (<i>Acer japonicum</i>). (庇陰条件で育てたハウチワカエデの苗木を紅葉期に強光へ曝すと、光阻害が生じて窒素の回収が抑制される)	Frontiers in Plant Science、13:1006413、 https://doi.org/10.3389/fpls.2022.1006413
永井智(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)、矢崎健一、内海泰弘(九州大学)	2022. 10.	スギ樹幹内の個々の円錐状成長層における心材化の過程	日本木材加工技術協会第40回記念年次大会講演要旨集、:206
ABE Hisashi(安部久)、KURATA Yohei(倉田洋平・日本大学)、WATANABE Ken(渡辺憲)、Peter Kitin(キティン・ピーター・ワシントン大学)、KOJIMA Miho(児嶋美穂)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)	2022. 10.	Longitudinal transmittance of visible and near-infrared light in the wood of 21 conifer species.(針葉樹21種の可視・近赤外領域の光の軸方向の透過性)	IAWA Journal、43(4):403-412

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、AGATHOKLEOUS Evgenios(エフゲニオスアガトクレウス・南京信息工程大学)、KISHIMOTO Junko(岸本純子・北海道大学)、TAKABAYASHI Atsushi(高林厚史・北海道大学)、TANAKA Ryouichi(田中亮一・北海道大学)	2022. 10.	Exposure to strong irradiance exacerbates photoinhibition and suppresses N resorption during leaf senescence in shade-grown seedlings of fullmoon maple (<i>Acer japonicum</i>). (庇陰条件で育てたハウチワカエデの苗木を紅葉期に強光へ曝すと、光阻害が生じて窒素の回収が抑制される)	Frontiers in Plant Science, 13:1006413, https://doi.org/10.3389/fpls.2022.1006413
今村直広、相澤州平、田中永晴、高橋正通、橋本徹、梅村光俊	2022. 10.	札幌近郊の森林における渓流水質の特徴	生物地球化学研究会現地セッション(2022)、A15
梅村光俊	2022. 10.	ササの葉と根から抽出したプラント・オパール粒の粒径分布と形態的特徴	生物地球化学研究会現地セッション(2022)、A12
今村直広、相澤州平、田中永晴、高橋正通、橋本徹、梅村光俊	2022. 10.	札幌近郊の森林における渓流水質の特徴	生物地球化学研究会現地セッション(2022)、A15
溝口康子	2022. 10.	北方森林学会春季行事報告－林分施業法に基づく広葉樹資源の育成・管理・利用－	北方林業、73(4):40-43
松浦友紀子、葛西真輔(知床財団)、伊吾田宏正(酪農大学)	2022. 10.	夜間銃猟はシカの個体数管理において有効な手段になりうるか	「野生生物と社会」学会要旨集、27:23-25
松浦友紀子、渡邊拓真(エゾシカ協会)、伊吾田宏正(酪農大学)、早稲田宏一(EnVision)、宇野裕之(東京農工大学)、伊吾田順平(西興部村猟区)、赤坂猛(エゾシカ協会)	2022. 10.	シカ捕獲認証(DCC)制度－8年間のあゆみ－	「野生生物と社会」学会要旨集、27:79
渡邊拓真(エゾシカ協会)、松浦友紀子、伊吾田宏正(酪農大学)	2022. 10.	銃種と射撃姿勢による命中精度比較	「野生生物と社会」学会要旨集、27:73
梅林里香子(酪農大学)、松浦友紀子、渡邊拓真(エゾシカ協会)、池田敬(岐阜大学)、伊吾田宏正(酪農大学)	2022. 10.	シカ用くくりわなの適切な移設のタイミングを突き止めよ！	「野生生物と社会」学会要旨集、27:74
松浦友紀子	2022. 10.	ドローンでシカを数える	一般社団法人エゾシカ協会ニュースレター、53:2-3
山口岳広	2022. 10.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 19 <i>Fomitiporia punctata</i>	北方林業、73(4):53
中西敦史、伊東宏樹、谷村亮(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、橋口稜世(北海道森林管理局森林技術・支援センター)	2022. 11.	針葉樹人工林皆伐跡地に生育するミズナラ稚樹個体群への切り株萌芽および前生稚樹の貢献	北方森林学会大会研究発表プログラム、71:P-16
関剛	2022. 11.	オオシラビソにおける、主幹から分枝した枝での球果の分布について	東北森林科学学会大会講演要旨集、27:ポスター発表20

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
石塚航(道総研)、北村系子、中西敦史、津山幾太郎、内山憲太郎、種子田春彦(東大)、久本洋子(東大)、後藤晋(東大)	2022. 11.	繁殖にみるトドマツ天然集団の標高間差	森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P29
HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、 <u>TSUYAMA Ikutaro</u> (津山幾太郎)、UEMURA Akira(上村章)、 <u>KITAO Mitsutoshi</u> (北尾光俊)、HAN Qingmin(韓慶民)、KURAMOTO Shigeo(倉本恵生)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2022. 11.	Growth and survival of hybrid larch F1 (Larix gmelinii var. japonica × L. kaempferi) and Japanese larch under various intensities of competition.(クレーンラーチとカラマツにおける雑草木との様々な競争条件下での生存と成長)	New Forests、 https://doi.org/10.1007/s11056-022-09952-8

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
中西敦史、伊東宏樹、谷村亮 (北海道森林管理局森林技術・支援センター)、橋口稜世 (北海道森林管理局森林技術・支援センター)	2022. 11.	針葉樹人工林皆伐跡地に生育するミズナラ稚樹個体群への切り株萌芽および前生稚樹の貢献	北方森林学会大会研究発表プログラム、71:P-16
石塚航(道総研)、北村系子、中西敦史、津山幾太郎、内山憲太郎、種子田春彦(東大)、久本洋子(東大)、後藤晋(東大)	2022. 11.	繁殖にみるトドマツ天然集団の標高間差	森林遺伝育種学会大会講演要旨集、11:P29
AGATHOKLEOUS Evgenios(エフゲニオス・ガトクレウス・南京信息工程大学)、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、TAMAI Yutaka(玉井裕・北海道大学)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2022. 11.	Single and combined effects of fertilization, ectomycorrhizal inoculation, and drought on container-grown Japanese larch seedlings (カラマツコンテナ苗への施肥、外生菌根菌接種、乾燥の単独および複合影響)	Journal of Forestry Research, 34:1077-1094、 https://doi.org/10.1007/s11676-022-01565-3
HAYASHI Seiji(林誠二・国立環境研究所)、TSUJI Hideki(辻秀樹・国立環境研究所)、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、OHASHI Shinta(大橋伸太)、IMAMURA Naohiro(今村直広)、MANAKA Takuya(真中卓也)、SAKASHITA Wataru(坂下渉)、SHINOMIYA Yoshiki(篠宮佳樹)、MIURA Satoru(三浦覚)、TAGAMI Keiko(田上恵子・放射線医学総合研究所)、UCHIDA Shigeo(内田滋夫・放射線医学総合研究所)	2022. 11.	Construction of Fukushima Scenario on “Catchment Landscape and Ecosystem”. (流域ランドスケープと生態系の福島シナリオの構築)	Second Technical Meeting (TM) on the IAEA’s Programme on Methods for Radiological and Environmental Impact Assessment (MEREIA)、Plenary 4-1
菅井徹人、澤田圭(北大院・農学研究院)、佐々木義久(北大院・農学研究院)、牧野礼、橋田光、石塚航(道総研林業試験場)	2022. 11.	積雪条件に着目したトドマツ成木の枝特性の産地間差の検討	北方森林学会大会研究発表プログラム、71:P-23
天野一葉(琵琶湖博物館)、石橋靖幸、東條一史、中村秀哉(常盤大学)	2022. 11.	遺伝情報に基づく外来種ソウシチョウの管理ユニット	日本鳥学会大会講演要旨集(2022)、67(A32)

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
OBASE Keisuke (小長谷啓介)、 YAMANAKA Satoshi (山中聡)、 YAMANAKA Takashi (山中高史)、 OZAKI Kenichi (尾崎研一)	2022. 11.	Short-term effects of retention forestry on the diversity of root-associated ectomycorrhizal fungi in Sakhalin fir plantations, Hokkaido, Japan.(北海道のトドマツ人工林における保持林業が外生菌根菌の多様性に及ぼす短期的な影響)	Forest Ecology and Management、523:120501、 https://doi.org/10.1016/j.foreco.2022.120501
KITAGAMI Yudai (北上雄大・三重大学)、 OBASE Keisuke (小長谷啓介)、 CHEN Chien-Fan (台湾林業研究所)、 MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大学)	2022. 11.	Effects of Climatic and Edaphic Conditions On Structuring Patterns of Soil Nematode Communities in Japanese Cedar (Cryptomeria Japonica) Plantations.(気候と土壌条件がスギ人工林の土壌線虫の群集構造パターンに与える影響)	Forest Ecology and Management、524:120518
上田明良 、末吉昌宏、佐藤重穂	2022. 11.	北海道における伐採がベッコウバエ科とアカバトガリオオズハネカクシに与える影響	北方森林学会大会研究発表プログラム、71:P-18
MURAMATSU Daisuke (村松大輔・京都大学野生動物研究センター・奈良教育大学自然環境教育センター)、 Leandro Vieira Vidal (アマゾンナス連邦大学生物科学研究所)、 Edson Rodrigues Costa (アマゾンナス連邦大学生物科学研究所)、 YODA Ken (依田憲・名古屋大学大学院環境学研究科)、 YABE Tsuneaki (矢部恒晶)、 Marcelo Gordo (アマゾンナス連邦大学生物科学研究所)	2022. 11.	Low-cost thermoregulation of wild sloths revealed by heart rate and temperature loggers(心拍数および温度ロガーによって明らかにされた野生ナマケモノの省力的温度調節)	Journal of Thermal Biology、110:103387
James R. P. Worth (ワースジェームズ)、 SHITARA Takuto (設楽拓人)、 KITAMURA Keiko (北村系子)、 KIKUCHI Satoshi (菊地賢)、 KANETANI Seiichi (金谷整一)、 MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、 UCHIYAMA Kentaro (内山憲太郎)、 TOMARU Nobuhiro (戸丸信弘・名古屋大学)	2022. 12.	Low elevation warm-edge Fagus crenata populations in the core of the species range are glacial relicts with high conservation value.(分布の範囲の中心にある低地高温耐性の限界ブナ林は氷河期の生き残り・保全価値の高いに明らかにする)	Ecological Research、 https://doi.org/10.1111/1440-1703.12378
菊地賢	2022. 12.	日本産キイチゴの多様化の歴史	北の森だより、29:2-3
上田明良 、 伊東宏樹 、佐藤重穂	2022. 12.	オサムシ科甲虫群集への針葉樹人工林の単木・群状保残伐および小面積皆伐の効果	日本森林学会誌、104(6):309-320
関剛	2022. 12.	枝あたりの数でみたトドマツ球果の豊凶について	北の森だより、29:4-5
北村系子 、 中西敦史 、 石塚航 (道総研)、 後藤晋 (東大)、 津山幾太郎 、 種子田春彦 (東大)、 久本洋子 (東大)、 内山憲太郎	2022. 12.	十勝岳トドマツ天然林における高標高帯分布限界集団の遺伝的分化	種生物学会シンポジウム、54:P44

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
James R. P. Worth(ワースジェームズ)、SHITARA Takuto(設楽拓人)、 KITAMURA Keiko (北村系子)、 KIKUCHI Satoshi (菊地賢)、KANETANI Seiichi(金谷整一)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、TOMARU Nobuhiro(戸丸信弘・名古屋大学)	2022. 12.	Low elevation warm-edge <i>Fagus crenata</i> populations in the core of the species range are glacial relicts with high conservation value.(分布の範囲の中心にある低地高温耐性の限界ブナ林は氷河期の生き残り・保全価値の高いに明らかにする)	Ecological Research、 https://doi.org/10.1111/1440-1703.12378
北村系子、並川寛司(北教大)、津田吉晃(筑波大)、小林誠(十日町市)、松井哲也	2022. 12.	Possible northern persistence of Siebold's beech, <i>Fagus crenata</i> , at its northernmost distribution limit on an island in Japan Sea: Okushiri Island, Hokkaido(日本海島嶼のブナ最北分布限界北海道奥尻島における潜在逃避地の可能性)	Frontiers in Plant Science、 https://doi.org/10.3389/fpls.2022.990927
中西敦史	2022. 12.	森林遺伝育種のデータ解析方法(実践編7)親子解析	森林遺伝育種、11(1):24-27、 https://doi.org/10.3213/5/fgtb.11.1_24
溝口康子	2022. 12.	羊ヶ丘落葉広葉樹林の変遷ー枯死量からみる40年の変化ー	北の森だより、29:6-7
小長谷啓介	2022. 12.	Latisporum系統グループの日本産セイヨウシロウロ属菌の菌株と針葉樹苗を用いて合成した菌根苗におけるspore matの形成に関する報告	菌根研究会札幌大会要旨集(2022)、:01
YUSTIKASARI Linda(三重大学)、KITAGAMI Yudai(北上雄大・三重大学)、TANIKAWA Toko(谷川東子・名古屋大学)、 OBASE Keisuke (小長谷啓介)、CHEN Chien-Fan(台湾林業研究所)、MATSUDA Yosuke(松田陽介・三重大学)	2022. 12.	Diversity and structure of arbuscular mycorrhizal fungi communities associated with artificial Japanese cedar trees along a latitudinal gradient.(緯度勾配に応じたスギ人工林におけるアーバスキュラー菌根菌の多様性と群集構造)	菌根研究会札幌大会要旨集(2022)、:012
赤井亮介(京都府大生命環境)、 上田明良 、黒田悠三(京都府大生命環境)、中尾史郎(京都府大生命環境)、中嶋智子(京都府大生命環境)	2022. 12.	京都府立大学農学部附属下鴨農場および京都府立植物園におけるオサムシ科甲虫群集(Coleoptera: Carabidae)の26年間の変化	京都府立大学学術報告 生命環境学、74:13-19

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
Andre L. S. Gonçalves(国立アマゾン研究所アマゾン哺乳類研究グループ)、Tadeu G. de Oliveira(マラニョン州立大学生物学部)、Alexander R. Arévalo-Sandi(国立アマゾン研究所アマゾン哺乳類研究グループ)、Lucian V. Canto(国立アマゾン研究所アマゾン哺乳類研究グループ)、YABE Tsuneaki(矢部恒晶)、Wilson R. Spironello(国立アマゾン研究所アマゾン哺乳類研究グループ)	2022. 12.	Composition of terrestrial mammal assemblages and their habitat use in unflooded and flooded blackwater forests in the Central Amazon.(アマゾン中部ブラックウォーター水系の浸水林および非浸水林における陸生哺乳類相の組成と生息地利用)	PeerJ、10:e14374
鈴木秀典、宗岡寛子、山口智、佐々木達也、山口浩和、毛綱昌弘	2023. 01.	フォワードの繰り返し走行による路面の形状変化ー自動走行と有人走行の比較	森林利用学会誌、38(1):51-58
小林慧人、崎谷久義(太市の郷)、梅村光俊	2023. 01.	タケ開花林を初めて調査して学んだこと:姫路市「太市の郷」活動地のハチク林における6年間の調査事例から	竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、30:3
SUGAI Tetsuto(菅井徹人)、ISHIZUKA Wataru(石塚航・北海道立総合研究機構林業試験場)、WATANABE Toshihiro(渡部敏裕・北海道大学農学研究院)	2023. 01.	Landscape gradient of autumn photosynthetic decline in Abies sachalinensis seedlings.(トドマツ苗木の秋の光合成低下における地理的勾配)	Journal of Forestry Research、34:187-195、 https://doi.org/10.1007/s11676-022-01592-0
菅井徹人、石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)	2023. 01.	冬の環境変動がトドマツに与える影響	北海道の林木育種、65(1):28-33
溝口康子、山野井克己	2023. 01.	札幌森林気象試験地の気象(1999~2018年)	森林総合研究所研究報告、21(4):337-350
尾崎研一	2023. 01.	北海道の森林で害虫となるハムシ類	北方林業、74(1):5-8
山口岳広	2023. 01.	北海道の生立木腐朽菌類の素顔 20 キコブタケ	北方林業、74(1):41
上田明良	2023. 01.	カシノナガキイムシの生態と温暖化による「ナラ枯れ」被害の拡大	北方林業、74(1):9-13
伊藤江利子、橋本徹、相澤州平、長倉淳子	2023. 02.	連年施肥を受けたトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ壮齢林における間伐前後のリター供給量	北方森林研究、71:53-58
菅井徹人	2023. 02.	車両系林業機械の走行による造林上の課題と可能性	造林時報、218:14-18
尾崎研一	2023. 02.	「トドマツ人工林における保残伐施業の実証実験」全体説明	北方森林研究、71:1-4
対馬俊之(道総研林試)、渡辺一郎(道総研林試)、明石信廣(道総研林試)、尾崎研二	2023. 02.	Productivity and Cost of Retention Harvesting Operation in Conifer Plantations.(針葉樹人工林における保持伐の生産性とコスト)	Forests、14(2):324、 https://doi.org/10.3390/f14020324
山口岳広	2023. 02.	ニホンカラマツとグイマツにおける根株腐朽被害比較の一例	北方森林研究、71:87-90
上田明良、滝久智、榎原寛(元森林総研職員)	2023. 02.	新種の宝庫、東カリマンタン低地林	森林技術、970:26-30
上田明良、末吉昌宏、佐藤重穂	2023. 02.	北海道における保持伐と小面積皆伐がベッコウバ工科とアカバトガリオオズハネカクシに与える影響	北方森林研究、71:63-66
嶋瀬拓也	2023. 03.	国内木材産業における近年の設備投資動向	日本森林学会大会学術講演集、134:P-006

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
横田康裕、垂水亜紀、 天野智将	2023. 03.	品質燃料チップの地域内供給体制ー山陰地方T町における取組事例	日本森林学会大会学術講演集、134:P-007
杉山真樹、横田康裕、 天野智将 、御田成顕、伊神裕司	2023. 03.	日本国内における早生樹種植栽および試験研究の現状について その3. 2020年時点の植栽面積	日本木材学会大会研究発表要旨集、73:Y16-03-1045
松田陽介、松村ゆかり、藤本清彦、伊神裕司、杉山真樹、横田康裕、 天野智将	2023. 03.	コナラ・センダン・ホオノキ・ハンノキの丸太から板材を製材したときの歩留まり	日本木材学会大会研究発表要旨集、73:F14-11-1530
橋本昌司、森大喜、阪田匡司、 橋本徹 、森下智陽、石塚成宏、山下尚之、清水貴範、小南裕志、深山貴文、岡本透、高梨聡、稲垣善之	2023. 03.	森林土壌メタン・CO2フラックスの全国モニタリング網の構築	日本森林学会大会学術講演集、134:P-278
橋本徹 、伊藤江利子、相澤州平、 石橋聡	2023. 03.	シラカンバ植栽木の生残と成長に対する地表処理の影響	日本森林学会大会学術講演集、134:P-094
原山尚徳、 津山幾太郎 、 古家直行 、山田健、 矢崎健一 、 佐々木達也 、 菅井徹人 、 北尾光俊	2023. 03.	クリーンラーチ植栽苗の初期成長に及ぼす苗木形状と立地条件の影響	日本森林学会大会学術講演集、134:P-096
山口浩和、 佐々木達也 、上月康博(合同会社エルヴェラボ)、茅根幸人(茨城県森林組合連合会)、二方教之(茨城県森林組合連合会)、猪俣雄太、中田知沙	2023. 03.	電動苗木運搬車の作業性向上を目的とした電動アウトリガの開発	日本森林学会大会学術講演集、134:P-367
山田健、 古家直行 、 佐々木達也 、渡辺一郎(北海道総合研究機構林業試験場)、渡邊祐哉(渡邊組)、小玉哲大(フォテク)	2023. 03.	海外製自動植付機の作業性能	日本森林学会大会学術講演集、134:K6
伊東宏樹 、衣浦晴生	2023. 03.	ナラ枯れの発生した横須賀市内のマテバシイ林の構造と更新	日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-139
関剛	2023. 03.	年次間で変動する生物季節下での、トドマツの雌花芽生産に有効な温度条件について	日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-115
梅村光俊 、 津山幾太郎 、 北村系子	2023. 03.	低温湿層処理および恒温・変温条件下におけるエゾミヤマザサ種子の発芽応答	日本森林学会大会学術講演集、134:P-114
菅井徹人 、石塚航(道総研林業試験場)、澤田圭(北大院・農学研究院)、 北村系子	2023. 03.	トドマツ成木の冠雪害抵抗性に関連する力学特性及び形態特性の産地間変異	日本森林学会大会学術講演集、134:F8
桑門温子(九大)、清水正明(九大)、 北村系子 、韓慶民、佐竹暁子(九大)	2023. 03.	分子フェノロジーの緯度クラインが明らかにする休眠打破メカニズム	日本生態学会大会講演要旨集、70:A02-02
北村系子 、原正利(千葉県博)、玉木一郎(岐阜森林アカデミー)	2023. 03.	Listen to the voices of local beech forests; an ecological and evolutionary conception of beech under phylogenetic and environmental constraints(地域のブナ林から:系統、環境の制約下におけるブナの生態と進化)	Ecological Research、38(2):214-217、 https://doi.org/10.1111/1440-1703.12390
小南裕志、平田晶子、 津山幾太郎 、松井哲哉、石塚成宏、酒井寿夫、橋本昌司、北原文章、西園朋広、山田祐亮、柳田高志、久保山裕史、早船真智、加用千裕(東京農工大)、小井土賢二、高田依里、外崎真理雄、江原誠、森田香菜子、古川拓哉、藤間剛	2023. 03.	ネットゼロエミッションの達成のための高分解能森林吸収源評価モデルの開発	日本森林学会大会学術講演集、134:P-109

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
松井哲哉、石塚成宏、柳田高志、江原誠、小南裕志、津山幾太郎、平田晶子、酒井寿夫、橋本昌司、北原文章、西園朋広、山田祐亮、久保山裕史、早船真智、加用千裕(東京農工大)、小井土賢二、高田依里、外崎真理雄、森田香菜子、古川拓哉、藤間剛	2023. 03.	ネットゼロエミッションの達成に資する森林吸収源評価枠組みの構築	日本森林学会大会学術講演集、134:P-282
梅村光俊、津山幾太郎、北村系子	2023. 03.	低温湿層処理および恒温・変温条件下におけるエゾミヤマザサ種子の発芽応答	日本森林学会大会学術講演集、134:P-114
設楽拓人、津山幾太郎、百原新(千葉大学園芸学部)、松井哲哉	2023. 03.	種分布モデルを用いた日本の植物社会学的植生単位の分布変遷推定	日本生態学会大会講演要旨集、70:P2-083
北尾光俊、矢崎健一、飛田博順、岸本純子(北海道大学)、高林厚史(北海道大学)、田中亮一(北海道大学)	2023. 03.	ハウチワカエデ紅葉期のアントシアニンの挙動と役割	日本森林学会大会学術講演集、134:S2-4

V. 資料

1. 会議

会 議 名	開 催 日	主 催	開 催 場 所
機構会議	年2回 (5・11月)	森林総合研究所 総合調整室	森林総合研究所
北海道支所運営連絡会	月2回	北海道支所	北海道支所
北海道支所運営会議	月2回	北海道支所	北海道支所
総務課長等会議	4.11.24～ 11.25	森林総合研究所 総務部	北海道支所
企画連絡会議	4.11.18	森林総合研究所 企画部	北海道支所 (オンライン含む)
北海道支所業務報告会	4.12.5	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
北海道地域評議会	5.2.22	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
機構評議会	4.11.17	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所
研究推進評価会議	5.3.2	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所

(林業研究開発推進ブロック会議)

林業研究・技術開発推進ブロック会議(北海道ブロック)	4.9.21	林野庁 北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
----------------------------	--------	--------------	--------------------

(林業試験研究機関連絡協議会)

北海道林業林産試験研究機関連絡協議会情報連絡部会	4.7.1	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会研究専門部会	4.8.3	道総研林産試験場	道総研林産試験場
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会総会	4.8.31	北海道支所	北海道支所 (オンライン含む)

(推進会議及びプロジェクト関連会議)

なし			
----	--	--	--

(北海道国有林森林・林業技術協議会)

北海道国有林森林・林業技術協議会	5.3.17	北海道水源林整備事務所	勇払郡厚真町
------------------	--------	-------------	--------

2. 諸行事

年 月 日	行 事
4.8.1～8.31	北海道地域一般公開(森林総合研究所ホームページにて公開)
5.2.13	北海道地域研究成果発表会

3. その他の諸会議

会 議 名	開催日	主 催	出 席 者
なし			

4. 職員の研修・講習

研 修 ・ 講 習 名	期 間	主 催	受 講 者
令和4年度国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所新規採用者研修	4.4.11～13	森林総合研究所 (つくば)	小林 卓也
令和4年度総合職新採用研修	4.4.18～21	林野庁	小林 卓也
令和4年度情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修	4.7.11	総務省北海道管区行政評価局	横濱 大輔
令和4年度情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修	4.7.11	総務省北海道管区行政評価局	吉田 厚
令和4年度行政手続・行政不服審査制度の運用に関する研修会	4.7.12	総務省北海道管区行政評価局	横濱 大輔
令和4年度行政手続・行政不服審査制度の運用に関する研修会	4.7.12	総務省北海道管区行政評価局	吉田 厚
令和4年度英語研修	4.8.1～12.16	(株)シャムロック	北村 系子
令和4年度英語研修	4.8.1～12.16	(株)シャムロック	中西 敦史
令和4年度英語研修	4.8.1～12.16	(株)シャムロック	山中 聡
第60回政府関係法人会計事務職員研修	4.10.4～11.17	財務省会計センター	渡辺 雄也

5. 受託出張(46件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
第1回北海道環境審議会地球温暖化対策部会	4.6.1	北海道	北海道庁別館	溝口康子
第1回国産材の安定供給体制の構築に向けた北海道地区需給情報連絡協議会	4.6.1	林野庁	オンライン(自宅)	嶋瀬拓也
第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会	4.6.20	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
第2回北海道環境審議会地球温暖化対策部会	4.7.1	北海道	かでの2.7	溝口康子
第3回札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議	4.7.14	札幌市	かでの2.7	石橋聡
第3回北海道環境審議会地球温暖化対策部会	4.7.27	北海道	オンライン(支所)	溝口康子
石狩空知地域森林づくり検討会	4.8.4	北海道	北海道第二水産ビル	吉田和正
北海道森林審議会林地保全部会現地視察	4.8.24	北海道	小樽市	吉田和正
北海道森林審議会林地保全部会現地視察	4.9.1	北海道	北海道立北の森づくり専門学院、民間植林現場、木材加工施設等	吉田和正
栄林会現地研修会の講師	4.9.9	栄林会	十勝東部森林管理署管内	石橋聡
技術力維持・向上対策研修運営委託事業に係る技術力維持・向上対策研修	4.9.13	林野庁	北海道森林管理局	嶋瀬拓也

5. 受託出張(46件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
奥尻島線ブナ林検討会	4.9.14～9.15	北海道	奥尻島長浜	北村系子
第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会委員	4.9.21	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
北海道森林管理局技術開発委員会現地検討会	4.9.27	北海道森林管理局	石狩森林管理署管内	藤原健
道産建築材供給検討会議	4.10.11	北海道	オンライン参加	嶋瀬拓也
支笏湖畔でのシカ調査協力	4.10.31～11.2	岐阜大学応用生物科学部付属野生動物管理学センター	支笏湖畔	松浦友紀子
生物多様性保全研修の現地実習実行の指導助言	4.11.2	林野庁森林技術研修所	森林技術総合研修所	尾崎研一
生物多様性保全研修講師	4.11.9～11.11	林野庁森林技術研修所	森林技術総合研修所	尾崎研一
第34回西興部村猟区新人ハンターセミナー＜基礎編＞の講師	4.11.25～11.27	NPO法人西興部村猟区管理協会	西興部村公民館視聴覚室、シカ牧場、解体場	松浦友紀子
第1回北海道森林管理局保護林管理委員会	4.11.28	北海道森林管理局	北海道森林管理局	吉田和正
第1回北海道森林管理局保護林管理委員会	4.11.28	北海道森林管理局	北海道森林管理局	菊地賢
第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会委員	4.12.19	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将

5. 受託出張(46件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
北海道立北の森づくり専門学院の外部講師	4.12.7～12.9	森林環境リアライズ	北の森づくり専門学院	嶋瀬拓也
第2回北海道森林審議会	4.12.19	北海道	北海道	吉田和正
鳥獣対策優良活動表彰審査委員会	4.12.19～12.20	農林水産省農村振興局	農林水産省	松浦友紀子
森林に関する調査研究	4.11.15～11.17	福島大学環境放射能研究所	福島大学	今村直広
第2回道産建築材供給検討会議	4.12.22	北海道	オンライン参加	嶋瀬拓也
第2回国産材の安定供給体制の構築に向けた北海道地区需給情報連絡協議会	5.1.16	林野庁	オンライン(自宅)	嶋瀬拓也
北海道立北の森づくり専門学院の外部講師	5.1.24～1.25	北海道立北の森づくり専門学院	北海道立北の森づくり専門学院	嶋瀬拓也
北海道立北の森づくり専門学院の外部講師	5.2.3	北海道立北の森づくり専門学院	北海道立北の森づくり専門学院	松浦友紀子
奥尻島ブナ林検討会	5.2.8	北海道	オンライン	北村系子
北の国・森林づくり技術交流発表会審査委員	5.2.14～2.15	北海道森林管理局	北海道大学学術交流会館	吉田和正
銃器を使用した専門的な野生鳥獣捕獲実習、エゾシカ解体実習、安全管理実習、ビームライフル実習の講師	5.2.13～2.16	酪農学園大学	西興部村	松浦友紀子

5. 受託出張(46件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
北海道立北の森づくり専門学院の外部講師	5.2.17	北海道立北の森づくり専門学院	北海道立北の森づくり専門学院	嶋瀬拓也
霧島錦江湾国立公園霧島地域における二ホンジカ対策検討会。	5.2.21	環境省九州地方環境事務所	えびのエコミュージアムセンター	矢部恒晶
第4回札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議	5.2.28	札幌市	札幌市みどりの推進部大会議室	石橋聡
新技術移転促進事業における「広葉樹活用講演会」の講師	5.3.2	岐阜県生活技術研究所	岐阜県生活技術研究所	天野智将
第2回北海道森林管理局保護林管理委員会	5.3.6	北海道森林管理局	北海道森林管理局	吉田和正
第2回北海道森林管理局保護林管理委員会	5.3.6	北海道森林管理局	北海道森林管理局	菊地賢
地域管理経営計画の策定に関する懇談会	5.3.9	北海道森林管理局	北海道森林管理局	吉田和正
北海道森林管理局技術開発委員会	5.3.10	北海道森林管理局	北海道森林管理局	佐々木達也
北海道森林管理局技術開発委員会	5.3.10	北海道森林管理局	北海道森林管理局	藤原健
第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会委員	5.3.14	北海道森林管理局	北海道森林管理局	天野智将
森林立地学会理事会出席	5.3.16	森林立地学会	オンライン(支所)	今村直広

5. 受託出張(46件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
洞爺湖中島エゾシカ対策協議会	5.3.20	洞爺湖中島エゾシカ対策協議会 (洞爺湖町)	洞爺湖町ビジターセンター	松浦友紀子
第4回北海道環境審議会地球温暖化対策部会	5.3.30	北海道	かでの2.7	溝口康子

6. 外国出張(7件)

用 務	日 程	経費負担先	行 先	氏 名
科学研究費助成事業「衛星画像から広大な熱帯林の生物多様性を推定するモデルの開発と多様性情報の地図化」におけるセミナー参加、研究活動の指導、現地視察およびカウンターパートとの打合わせ。	4.9.3 - 4.9.19	日本学術振興会	インドネシア共和国	上田明良
政府等外受託「アンデス管理」研究課題4「水資源によるランドスケープ最適化システム開発」推進のため、水資源モデルの開発をカウンターパートと共同で実施する。	4.10.3 - 4.10.8	科学技術振興機構	ペルー共和国	澤野真治
科学研究費助成事業「衛星画像から広大な熱帯林の生物多様性を推定するモデルの開発と多様性情報の地図化」におけるセミナー参加、研究活動の指導、現地視察およびカウンターパートとの打合わせ。	4.11.26 - 4.12.11	日本学術振興会	インドネシア共和国	山中聡
科学研究費助成事業「衛星画像から広大な熱帯林の生物多様性を推定するモデルの開発と多様性情報の地図化」におけるセミナー参加、研究活動の指導、現地視察およびカウンターパートとの打合わせ。	4.11.26 - 4.12.11	日本学術振興会	インドネシア共和国	上田明良
政府等外受託「アンデス-アマゾンにおける山地森林生態系保全のための統合型森林管理システムの構築」における現地調査およびカウンターパートとの打合せ。	4.11.19 - 4.12.7	科学技術振興機構	ペルー共和国	今村直広
科学研究費助成事業「山火事耐性に注目した熱帯季節林のタケ類4種の共存機構」における現地調査および研究打合せ。	5.1.21 - 5.1.29	日本学術振興会	タイ王国	梅村光俊
科学研究費助成事業「大径木択伐から始まる熱帯林の土壌劣化パターンと植生回復の関係」における現地調査およびカウンターパートとの打合せ。	5.2.14 - 5.3.2	日本学術振興会	カンボジア王国	古家直行

7. 研修生の受入

① 受託研修生(0名)

氏 名	所 属	研 修 期 間	研 修 内 容	受 入 担 当
な し				

② 海外研修生(0名)

氏 名	所 属	研 修 期 間	目 的	受 入 担 当
な し				

③ 特別研究員(0名)

氏 名	受 入 機 関	研 究 課 題	受 入 担 当
な し			

④ 外国人特別研究員(日本学術振興会)(0名)

	受 入 機 関	研 究 課 題	受 入 担 当
な し			

8. 来訪者

①支所視察・見学・利用

来訪日	来訪者	人数	目的	担当者
4.4.21	ノルカツキーツ	8	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.5.19	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.6.16	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.7.21	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.8.18	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.10.20	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.11.17	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.6.17	介護予防センター西岡	20	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
4.9.13	自然ウォッチングななまかまど	15	自然観察	地域連携推進室
4.7.26	自然ウォッチングセンター	20	自然観察	地域連携推進室
4.7.15	帝国器材株式会社	4	木材利用推進・製品開発のための情報収集	地域研究監
4.10.21	札幌科学技術専門学校	13	樹木調査の実習	地域連携推進室
4.10.20	西岡ふたば幼稚園	62	園外活動	地域連携推進室
4.10.13	西岡南小学校	85	校外学習	地域連携推進室
4.10.26	札幌太陽豊平こども劇場	10	樹木園散策	地域連携推進室
4.10.21	西岡ふたば幼稚園	45	園外活動	地域連携推進室
4.10.21	鹿児島木材産業協同組合	20	林業・木材産業の研修	地域連携推進室
5.1.19	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.2.16	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
5.3.16	ノルカツキーツ	6	ノルディックウォーキング	地域連携推進室

②実験林利用者

利用期間	利用者	人数	目的
R4.4.1～ R4.11.20	川路則友ほか	8	森林性鳥類の繁殖生態調査、鳥類標識調査
R4.4.1～ R4.5.10	平川浩文	1	雪中で越冬するコウモリに関する調査
R4.4.18～ R4.12.2	林木育種センター北海道 育種場	3	増殖試験実施のための、ヤマナラシの種子、枝、根の採取
R4.4.18～ R5.3.31	北海道大学低温科学研究所	6	森林キャノピーにおける乱流の空間構造解析のための実験観測
R4.6.21～ R4.6.24	鳴門教育大学	2	室内実験に使用する昆虫類(半翅目・甲虫目等)の採集
R4.6.22～ R4.6.25	北海道大学低温科学研究所	6	トガリネズミ類の行動実験のための生体捕獲
R4.6.13～ R4.8.31	北海道大学農学院昆虫体系学研究室	1	ツノカメムシ類の成虫と卵の採集
R4.8.15～ R4.9.2	平川浩文	1	自動撮影装置による野生生物(哺乳類)の生息状況把握
R4.9.1～ R4.10.31	札幌キノコの会第六支部	14	子囊菌茸・チャワン茸類等の調査
R4.10.21	札幌科学技術専門学校	13	専門学校の学生実習の一環としての林分の材積調査実習及び樹木学実習
R4.11.22～ R5.3.31	東海大学生物学部生物科	18	森林性鳥類を対象とする巣箱を用いた繁殖生態調査
R5.3.20～ R5.3.31	平川浩文	1	雪中で越冬するコウモリに関する調査

③標本館来館者数

	一 般	学 生	国	都道府県	林業団体	総研職員	外国	計
4月	25	6		3		4		38
5月	49	32	1					82
6月	49	9				1		59
7月	42	9	1					52
8月	39	14				15		68
9月	21	2				1		24
10月	63	81	1			3	9	157
11月	31	3						34
12月	3							3
1月	6	1						7
2月	4	3						7
3月	26	16						42
合 計	358	176	3	3	0	24	9	573

9. 広報活動

①新聞等

内 容 等	掲載日	社 名
ササ生に一度の開花	4.6.1	北海道新聞
企業による広葉樹の森づくり	4.10.18	北海道新聞
奥尻島(北海道)のブナ林	5. 3. 5	しんぶん赤旗

②テレビ放送

内 容 等	放送日	局 名
北海道支所羊ヶ丘実験林で撮影されたヒグマ	5. 3. 1	テレビ朝日スーパーJチャンネル
北海道支所羊ヶ丘実験林で撮影されたヒグマ	5. 3. 7	テレビ朝日羽鳥慎一モーニングショー

③定期刊行物

内 容 等	ISSN	発行日	発行部数
令和4年版北海道支所年報	2187-8730	3.3	支所ホームページで公開
北の森だよりVol.28	1882-9627	3.7.4	1,100
令和3年度北海道地域研究成果発表会発表集 ・地表処理法としての地がき、盛り土、天地返しと比較 ・シラカンバ若齢一斉林の間伐試験 ・天然更新を活かした地がきカンバ林の施業適地を予測する ・湿った土壌では、競合植生となるヒヨドリバナに対する競争力が大きく低下し、シラカンバの天然更新が難しくなる ・UAVとAIを活用した採種園着果情報の提供 刊行物紹介 ・低コストカンバ施業マニュアルを発行しました			
北の森だよりVol.29	1882-9627	3.12.28	1,100
研究紹介 ・日本産キイチゴの多様化の歴史 ・枝あたりの数でみたトドマツ球果の豊凶について ・羊ヶ丘落葉広葉樹林の変遷－枯死量からみる40年の変化－ お知らせ ・令和4年度北海道地域研究成果発表会			

10. 図書刊行物の収数

区 分	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄 贈	計	購 入	寄 贈	計	
単行書	2冊	2冊	4冊	0冊	0冊	0冊	4冊
逐次刊行物	42誌	180誌	222誌	6誌	1誌	7誌	229誌

11.固定試験地・収穫試験地

①固定試験地

区分:A 森林総研主体、A' 森林総研・道局共同、B 道局からの依頼

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積(ha)	設定年度	終了予定年度	調査年度	距離(km)	担当研究グループ	区分
札幌 4	苫小牧植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化(風害後の遷移)	胆振東部	1301い-3	トドマツ アカエゾマツ	1.67	S32	R05	不定期	97.6	森林育成研究グループ	A
				1463い	エゾマツ ダケカンバ	###						
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41は	トドマツ	0.90	S36	R23	10年毎	49.6	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18ろ	カラマツ	1.10	S41	R16	5年毎	75.1	北方林管理研究グループ	A
札幌32	ヤチダモ人工林の構造と生長試験地(3)(4)	長伐期林分情報の整備方式の開発の予測	石狩	41ほ-20	ヤチダモ	1.14	S30	R17	5年毎	29.9	北方林管理研究グループ	A
				41ほ-33	ヤチダモ	1.13	S25					
札幌51	札幌トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	石狩	58ぬ 64た	トドマツ	3.94	S42	R19	不定期	39.4	本所	A
札幌54	空沼天然林施業試験地(1)(2)	トドマツ・エゾマツ天然林の生長予測	石狩	1128は-い-1・と	トドマツ	2.16	S43	R20	5年毎	24.6	北方林管理研究グループ	A
				1129れ-ほ・へ	エゾマツ 広葉樹	0.99	S44					
札幌61	苫小牧広葉樹試験地	落葉広葉樹林の更新	胆振東部	1205い	広葉樹類	###	S50	R11	不定期	80.0	森林育成研究グループ	A'
旭川 2	大雪植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化(風害後の遷移)	上川中部	2260ろ 2276い 2290い 2320い ろ	未立木	1.50	S31	R06	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
				2260ろ 2276い 2290い 2320い ろ								
旭川 3	林冠破壊による土壌の変化試験地	森林伐採に伴う設置環境変動と堆積腐植分解との関係	上川中部	2260ろ 2276い 2290い 2320い ろ	未立木	1.50	S31	R06	不定期	248.4	植物土壌系研究グループ	B
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50い	トドマツ	0.56	S38	R17	10年毎	329.4	北方林管理研究グループ	A
旭川11	大雪原生林植物群落保護林調査試験地	原生林の更新動態	上川中部	2254い 2260い	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ	2.00	H11	定めず	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川12	士別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川北部	2397い	トドマツ エゾマツ	3.26	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
旭川13	幾寅天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川南部	141ろ	トドマツ エゾマツ	4.00	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 4	エゾマツ・トドマツ天然林固定標準地	林分成長量の推定及び予測手法に関する研究	網走中部	1041は	エゾマツ トドマツ 広葉樹	2.60	S33	R20	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108う	カラマツ	1.09	S42	R16	5年毎	266.5	北方林管理研究グループ	A
北見 7	佐呂間トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	網走中部	2090む	トドマツ	4.53	S42	R19	不定期	335.4	本所	A
北見 8	津別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	網走南部	2205ろ	トドマツ エゾマツ	2.64	H15	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	4077ろ	トドマツ	1.00	S40	R08	10年毎	482.3	北方林管理研究グループ	A
帯広10	弟子屈天然林成長試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	根釧西部	4047い	トドマツ エゾマツ	8.00	H15	R04	5年毎		北方林管理研究グループ	A
函館 8	函館トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	檜山	5130へ-と・ち	トドマツ	4.42	S42	R19	不定期	319.3	本所	A

②収穫試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積(ha)	設定年度	終了予定年度	調査年度	担当研究グループ	区分
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41は	トドマツ	0.90	S36	R23	10年毎	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18ろ	カラマツ	1.10	S41	R16	5年毎	北方林管理研究グループ	A
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50い	トドマツ	0.56	S38	R17	10年毎	北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108う	カラマツ	1.09	S42	R16	5年毎	北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	4077ろ	トドマツ	1.00	S40	R08	10年毎	北方林管理研究グループ	A

12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧

No.	試験林名	試験項目	林班	樹種	年度	面積 ha	担当
1	針葉樹病害試験林	病害発生情報の収集・解析と突発性病害発生生態の解明	1-に	トドマツ 他	48	0.55	森林生物研究グループ
2	野鳥誘致林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	1-ハ	ナナカマド 他	48	0.62	森林生物研究グループ
3	特用樹試験林	成長調査	1-と	キササゲ 他	50	0.61	業務係
4	針・広葉樹造成試験林	成長調査	1-ち	イチイ他	H元	0.50	業務係
5	群落構成試験林	北方系天然林における成長及び更新動態の長期モニタリング	2-は～よ	ハイマツ 他	48	10.43	森林育成研究グループ
6	針葉樹人工林試験林	成長調査	3-に、 5-ハ～ ち、5- ぬ、 6-と	グイマツ 他	48	4.95	業務係
7	針葉樹腐朽病害試験林	立木の腐朽・変色を起こす菌類の生態および宿主との相互作用の解明	3-ほ	カラマツ	H3	0.97	森林生物研究グループ
8	広葉樹人工林試験林	成長調査	3-ハ、 3-ち～ る、4- ろ、 5-り、 7-に	ミズナラ 他	48	6.31	業務係
9	広葉樹人工林試験林	北方林構成樹種の養分の配分・利用特性	3-と	ウダ イカンバ	49	0.94	植物土壌系研究グループ
10	土壌環境長期モニタリング試験林	北方林の立地特性と物質循環モデル	4-ハ	トドマツ他	48	1.62	植物土壌系研究グループ
11	昆虫多様性試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-と	トドマツ他	48	3.21	森林生物研究グループ
12	虫害解析試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-ち	トドマツ他	48	2.00	森林生物研究グループ
13	生態遷移試験林	森林の更新を制御する因子としてのササの動態及びその被覆の影響の評価	5-ろ、 6-ろ、 6-ほ	ヤマナシ他	53	21.19	森林育成研究グループ
14	森林気象試験林	北方系落葉広葉樹林の二酸化炭素動態のモニタリング	5-ろ、 6-い～ ハ、8- い～ろ	ヤマナシ他	H6	57.13	寒地環境保全研究グループ
15	植栽密度試験林	密度管理技術に基づく長伐期林分の成長・収穫予測の高度化	5-に	アカエゾマツ 他	48	5.77	北方林管理研究グループ
16	鳥獣生態調査試験林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	6-い、ハ	シロカンバ 他	H5	14.96	森林生物研究グループ
17	広葉樹用材林施業試験林	天然林における択伐施業計画法の改善	6-は～に	シロカンバ 他	53	6.31	北方林管理研究グループ
18	針広混交林造成試験林	樹種の環境適応性の生理的特性の解明と評価	7-い～ろ	シロカンバ 他	50	14.95	植物土壌系研究グループ
19	ウダイカンバ植栽試験林	成長調査	8-は	ウダ イカンバ	62	1.93	業務係

13. 羊ヶ丘の気象

○試験研究の資料として、昭和48年から北海道支所羊ヶ丘観測露場において、気象観測を実施している。

令和4年度の気象概要は以下のとおりである。

1. 今年度は、平均気温8.4℃で平年より0.8℃高かった。最高気温は7月3日に記録した31.5℃であり、真夏日に相当する30℃を超える日は3日あった。
また最低気温は1月24日と2月15日に記録した-15.5℃であり、真冬日に相当する最高気温が氷点下の日数は50日であった。

2. 目視による初雪は11月17日で、5年3月までに積雪した雪は、3月25日に積雪ゼロとなった。

令和4年度の羊ヶ丘観測露場における観測値は、次表のとおりである。

令和4年度 気象年報

北緯 42度59分42秒
東経 141度23分26秒
標高 146.5m

1. 気温 (℃)

月	平均	最高平均	最低平均	極値最高	起日時	極値最低	起日時
R4. 4	7.1	13.3	-0.8	22.3	21 13:32	-3.3	2 0:03
5	13.2	18.7	6.2	26.5	26 12:53	2.4	5 4:52
6	15.2	22.4	10.2	28.7	25 11:21	3.3	5 4:03
7	21.3	24.2	18.1	31.5	3 15:09	14.8	9 3:33
8	20.7	23.3	17.8	29.1	12 13:35	13.6	25 4:45
9	17.7	21.9	11.6	29.0	9 13:15	6.4	22 5:11
10	10.7	19.6	3.8	27.5	1 14:37	-1.1	25 4:22
11	5.3	10.6	-1.0	17.2	12 13:16	-5.6	30 21:14
12	-3.2	2.1	-8.9	6.1	13 13:04	-13.0	19 6:06
R5. 1	-6.2	2.7	-12.6	7.6	13 14:50	-15.5	24 19:40
2	-4.5	5.6	-10.8	10.9	28 12:59	-15.5	15 2:37
3	3.2	9.4	-2.1	17.7	22 14:51	-5.2	5 0:46
年	8.4	14.5	2.6	31.5	7/3 15:09	-15.5	1/24 19:40 2/15 2:37
極値				35.7	1994/8/7 14:10	-22.8	1978/2/17 3:25

2. 降水量 (mm)

3. 積雪 (m)

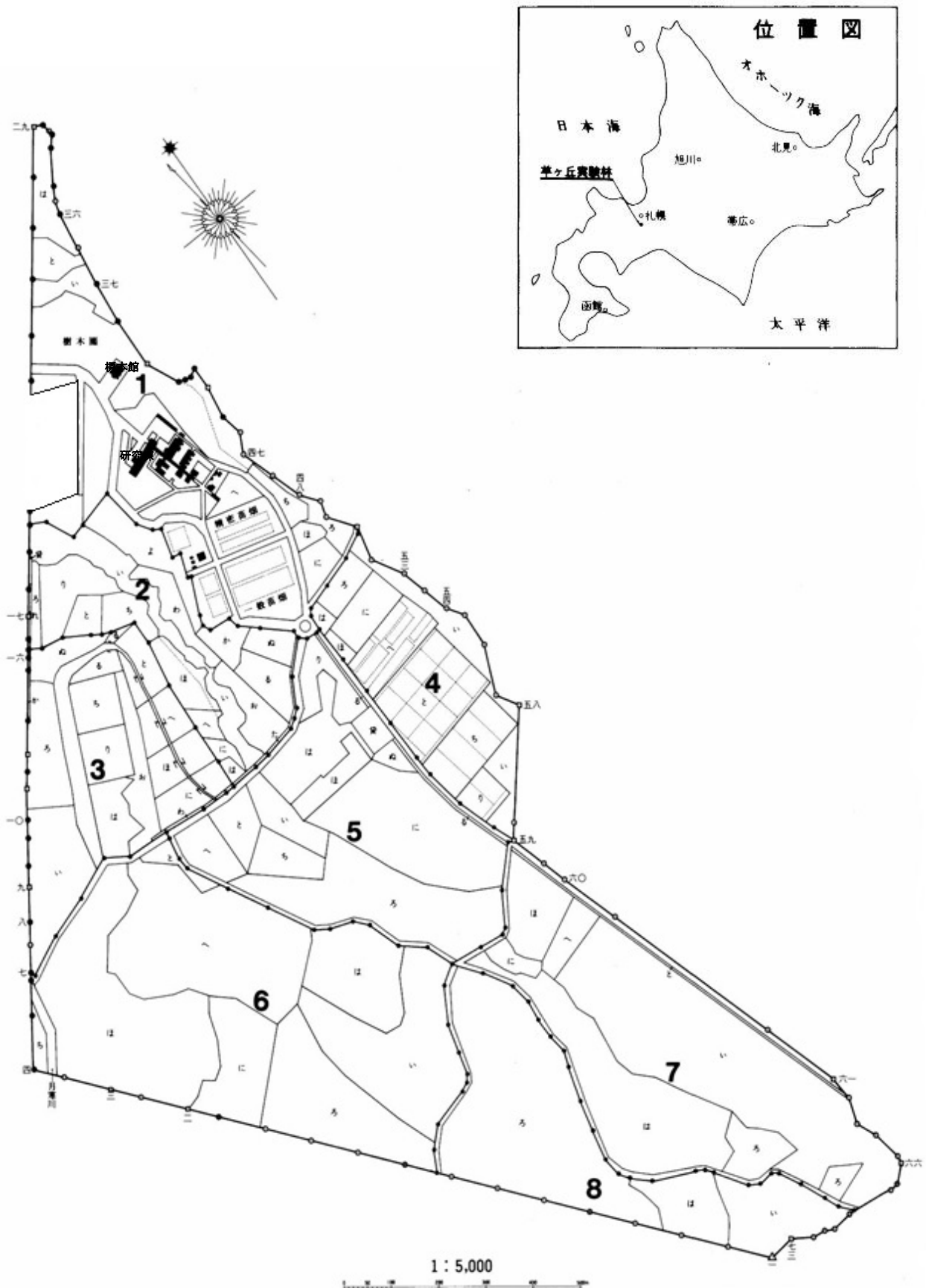
(×:欠測値)

月	総 量	最大日量	起 日	最 大 1時間量	起 日	最大 積雪深	起 日
R4. 4	11.5	6.5	18	3.0	18	-	-
5	67.5	36.0	27	7.0	2	-	-
6	75.5	20.0	24	6.0	24	-	-
7	71.0	45.5	17	8.0	17	-	-
8	220.0	85.0	16	14.5	16	-	-
9	104.5	27.0	19	10.5	19	-	-
10	64.5	26.0	10	5.5	4	-	-
11	68.0	15.5	21	5.5	13	0.03	30
12	85.0	20.0	23	5.5	23	0.55	25
R5. 1	37.5	12.5	16	3.0	21	0.84	16
2	39.5	9.0	20	2.0	13	1.08	26
3	31.5	12.0	26	2.5	26	0.89	4
年	876.0	85.0	8/16	14.5	8/16	1.08	2/26
最大値の記録							
年降水量		最大日降水量		最大1時間降水量		最大積雪深	
最大	1,490.0 (1981)	220.5		51.0		1.50	
最小	572.0 (2008)	1981/8/23		1979/10/4/3:00		2013/3/11	

4. 風速 (m/sec)

月	平均	最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
R4. 4	1.9	6.9	S	24	19.0	W	27
5	1.8	6.8	S	5	16.3	NNW	29
6	1.5	6.3	S	10	16.1	SSW	15
7	1.2	5.8	S	15	17.4	S	15
8	1.5	5.1	S	10	15.1	SSW	2
9	1.5	7.5	SSE	6	21.7	SSE	6
10	1.4	5.4	S	4	15.1	SSE	10
11	1.4	6.4	NNW	13	17.4	S	13
12	1.0	5.5	S	13	17.0	SW	13
R5. 1	1.2	4.0	N	14	12.9	WNW	25
2	1.3	6.3	S	28	16.3	NNW	2
3	1.9	7.5	S	13	20.4	S	13
年	1.5	7.5	SSE S	9/6 3/13	21.7	SSE	9/6

○羊ヶ丘実験林基本図



VI. 総務

1. 沿革

1908 年（明41）	6月	北海道庁告示第361号によって、江別村大字野幌志文別に内務省野幌林業試験場が設立された。
1927 年（昭 2）	9月	庁舎を江別町西野幌に新築・移転した。
1933 年（昭 8）	1月	北海道林業試験場と改組され、試験部（育林、利用、科学、保護、気象）、庶務部（庶務、会計、売買）が設置された。
1936 年（昭11）	10月	木材利用部が新設され、また森林標本館が設置された。 10月7日に昭和天皇陛下行幸、本場並びに附属試験林を見学された。
1937 年（昭12）	10月	上川森林治水保安試験所が開設された。
1939 年（昭14）	8月	釧路混牧林業試験所が開設された。
1940 年（昭15）	1月	帝室林野局北海道林業試験場が札幌市豊平に設立された。
1945 年（昭20）	8月	野幌試験林の管理経営を札幌営林署に移管した。
1947 年（昭22）	5月	林政統一により帝室林野局北海道林業試験場と北海道庁所管の北海道林業試験場を合併し、農林省林業試験場札幌支場に改組され、本部を野幌におき、豊平を分室とした。
1950 年（昭25）	4月 7月 12月	上川、釧路両試験所が、それぞれ試験地に名称変更された。 札幌営林局付属「森林有害動物調査所」が札幌支場の野鼠研究室になった。 木材利用部門は、本場に集中された。
1951 年（昭26）	7月	支場を札幌市に、また分室を西野幌においた（経営部、造林部、保護部、庶務課）。
1953 年（昭28）	10月	野幌の試験設備をすべて札幌市豊平に統合し、北海道支場と改めた。 野幌試験地が開設された。
1954 年（昭29）		経営部に牧野研究室を新設、調査室が庶務課から分離（昭22新設）、造林部種子研究室が育種研究室に名称変更された。
1955 年（昭30）		保護部病理昆虫研究室が昆虫及び樹病研究室に分離された。
1961 年（昭36）	5月 11月	千歳国営林において植樹祭が行われる。昭和天皇・皇后両陛下が支場に行幸された。 所期の目的が達せられたので、上川試験地は廃止された。
1965 年（昭40）	4月 9月	経営部牧野研究室が営農林牧野研究室に名称変更された。 所期の目的が達せられたので、釧路試験地は廃止された。
1967 年（昭42）	6月	会計課が新設された。
1968 年（昭43）	10月	創立60周年となり、祝典を行った。
1969 年（昭44）	4月	造林部造林研究室が造林第1及び造林第2研究室に分離された。
1970 年（昭45）	5月	経営部防災研究室が治山、防災研究室に分離された。
1972 年（昭47）	5月	羊ヶ丘への移転計画で実験林設置が決定されたため、野幌試験地は廃止された。調査室から実験林室が分離された。
1974 年（昭49）	10月	庁舎が札幌市豊平区豊平から同市豊平区羊ヶ丘へ移転し、施設の新築・整備が行われた。
1975 年（昭50）	4月	保護部野鼠研究室が鳥獣研究室に名称変更された。
1976 年（昭51）	3月 5月	羊ヶ丘における施設整備を完了した。 造林部が育林部に名称が変更された。
1978 年（昭53）	10月	創立70周年となり、一般公開及び祝典を行った。
1981 年（昭56）	4月	育林部育種研究室が遺伝育種研究室に名称変更された。
1988 年（昭63）	10月 10月	農林水産省組織規程の一部改正により森林総合研究所北海道支所に改組された。調査室が連絡調整室に、育林部造林第1、造林第2研究室は樹木生理、造林研究室に、経営部経営、営農林牧野研究室は天然林管理、経営研究室にそれぞれ名称変更された。また経営部治山研究室と防災研究室は防災研究室に統合された。 創立80周年となり、記念植樹を行った。
1998 年（平10）	10月	創立90周年となり、一般公開及び祝典を行った。
2001 年（平13）	4月	独立行政法人森林総合研究所北海道支所となり、組織が変更となった。部制、会計課及び研究室が廃止され、研究調整官、地域研究官、庶務課長補佐、5チーム長、5研究グループ（森林育成・植物土壌系・寒地環境保全・森林生物・北方林管理）が新設された。
2006 年（平18）	4月	実験林室を連絡調整室へ統合し、業務係を新設した。研究調整官が研究調整監に、地域研究官が地域研究監に職名が変更された。
2007 年（平19）	4月	庶務課職員厚生係を庶務係へ統合した。
2008 年（平20）	10月	創立100周年となり、記念植樹及び式典を行った。
2010 年（平22）	10月	育種調整監を新設した。
2011 年（平23）	4月	研究調整監が産学官連携推進調整監に職名が変更された。
2011 年（平23）	9月	11日、札幌市内にて開催の「国際微生物学連合2011会議」ご臨席のためご来道された天皇陛下が、当所標本館をご視察された。
2015 年（平27）	4月	独立行政法人の3分類により、国立研究開発法人となった。
2016 年（平28）	4月	産学官連携推進調整監を産学官民連携推進調整監に職名が変更され、連絡調整室を地域連携推進室に名称変更した。
2017 年（平29）	4月	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所となった。
2018 年（平30）	4月	庶務課が総務課に名称変更された。
2018 年（平30）	10月	創立110周年となり、記念植樹及び式典を行った。

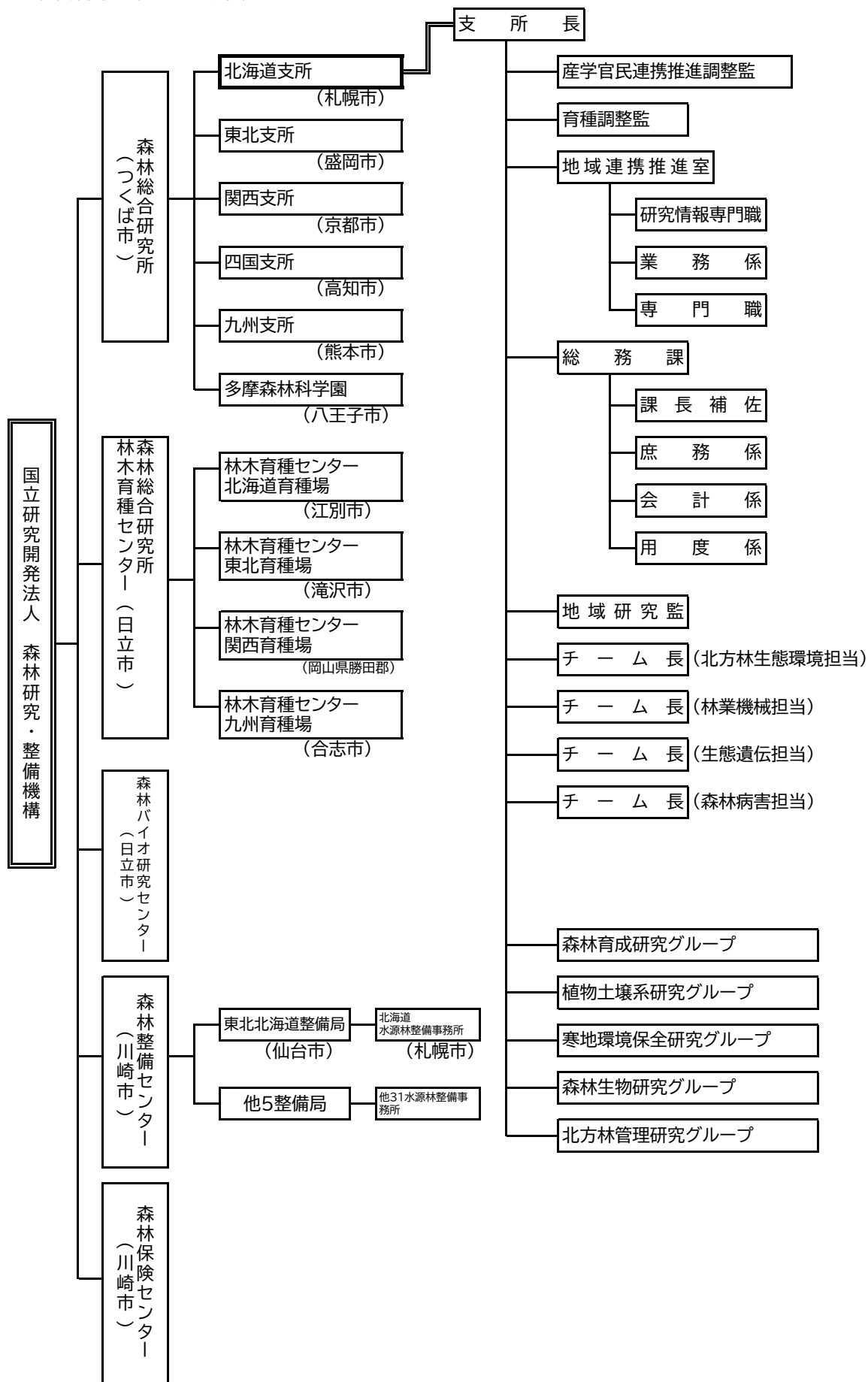
2. 土地・施設

○敷地・建物面積

(単位:㎡)

区 分	土 地 ・ 建 物		備 考
	構 造	面 積	
土 地		1,721,394	
建物敷地		55,668	
樹木園		62,900	
苗畑		38,590	
試験林ほか		1,564,236	
建 物(延)		7,655	
研究本館	RC-3	3,893	昭和49年8月10日 建築
特殊実験室	RC-1	848	昭和48年4月1日 建築
生物環境調節実験施設	RC-1	377	昭和49年10月12日 建築
野兎生態実験室	RC-1	142	昭和48年4月1日 建築
鳥類屋外実験室	RC-1	56	昭和49年10月12日 建築
温室	R -1	300	昭和49年10月12日 建築
樹病隔離温室	R -1	135	昭和49年10月12日 建築
日長処理施設	R -1	129	昭和49年10月12日 建築
苗畑調査実験室	RC-2	345	昭和48年4月1日 建築
鳥獣飼育場	R -1	222	平成15年12月18日 建築
標本館	RC-1	392	昭和49年10月12日 建築
その他		816	

3. 組織(令和5年4月1日現在)



4. 職員の異動(令和4年4月2日～令和5年4月1日)

○転入

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
4.7.1	今村 直広	植物土壌系研究グループ	立地環境研究領域
4.10.1	高畑 義啓	チーム長(森林病害担当)	九州支所 森林微生物管理研究グループ
4.10.1	小長谷啓介	森林生物研究グループ	きのこ・森林微生物研究領域
5.4.1	山川 祥梧	総務課用度係	総務部資産管理課管財総務係

○転出

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
4.8.1	石原 誠	九州支所 チーム長(樹木病態生理担当)	森林生物研究グループ
5.4.1	渡辺 雄也	総務部経理課決算第一係	総務課用度係
5.4.1	古家 直行	農林水産技術会議 研究専門官	北方林管理研究グループ長

○退職(任期満了)

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
5.3.31	坂上 勉		総務課

5. 職員名簿(令和5年4月1日現在)

支所長	研究職	吉田 和正			
産学官民連携推進調整監	研究職	藤原 健	森林育成研究グループ長	研究職	伊東 宏樹
育種調整監(併任)	一般職	門脇 大輔	主任研究員	//	北村 系子
(林木育種センター北海道育種場長)			//	//	関 剛
			//	//	津山幾太郎
地域連携推進室長	一般職	倉持 寿啓	//	//	中西 敦史
研究情報専門職	//	内山 拓			
専門職	//	長澤 俊光	植物土壌系研究グループ長	研究職	北尾 光俊
業務係長	//	熊谷 憲治	主任研究員	//	矢崎 健一
再雇用	研究専門員	松崎 智徳	//	//	今村 直広
			//	//	梅村 光俊
総務課長	一般職	渡邊 謙一	研究員	//	菅井 徹人
課長補佐	//	横濱 大輔	寒地環境保全研究グループ長		
庶務係長	//	吉田 厚		研究職	溝口 康子
会計係長	//	土谷 直輝	主任研究員	//	澤野 真治
用度係長	//	佐藤 正人	森林生物研究グループ長		
係員	//	山川 祥梧		研究職	石橋 靖幸
再雇用	一般専門員	室谷 邦彦	主任研究員	//	松浦友紀子
			//	//	小長谷啓介
地域研究監	研究職	嶋瀬 拓也	//	//	山中 聡
			研究員	//	小林 卓也
チーム長	//	橋本 徹	再雇用	研究専門員	尾崎 研一
(北方林生態環境担当)			//	//	山口 岳広
チーム長	//	佐々木達也	//	//	上田 明良
(林業機械担当)			//	//	矢部 恒晶
チーム長	//	菊地 賢	北方林管理研究グループ長		
(生態遺伝担当)				研究職	天野 智将
チーム長	//	高畑 義啓	主任研究員	//	辰巳 晋一
(森林病害担当)			再雇用	研究専門員	石橋 聡
				研究職	26 名
				一般職	11 名
				再雇用(一)	1 名
				再雇用(研)	6 名

6. 事業予算額 (令和4年度)

(1) 事業予算額

(単位:千円)

事業科目名		予算額
事業費		11,042
一般研究費		6,678
	1ア／北海道	744
	1イ／北海道	2,218
	1ウ／北海道	938
	2ア／北海道	1,677
	2イ／北海道	605
	2エ／北海道	13
	連携推進費	483
	機械整備費	0
特別研究費		3,580
	交付金プロジェクト	3,580
基盤事業費		784
	基盤事業費	784
政府等受託事業費		4,791
農林水産省受託事業費		2,706
	農林水産技術会議事務局受託事業	1,805
	林野庁受託事業	900
環境省受託事業費		1,655
	地球環境保全試験研究費	1,655
地方公共団体受託事業		430
	北海道北広島市	360
政府外受託事業費		6,428
	特殊法人等受託事業費(委託元政府)	3,710
	特殊法人等受託事業費(委託元政府外)	2,718
所内委託プロ		0
科学研究費補助金		27,213
寄付金事業		1,893
林野庁補助事業		0
研究管理費		32,891
一般管理費		39,797
施設整備費補助金		6,226
合 計		130,281

(2) 収入契約

(単位:千円)

事業科目名	予算額
事業収入	
調査等依頼収入	13
事業外収入	
資産貸付収入	44
雑収入	86
合 計	143

2024年2月発行 令和5年版 森林総合研究所北海道支所年報

編 集 ・ 発 行 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所
(担当:地域連携推進室)

〒062-8516 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘 7 番地
TEL(011)851-4131 FAX(011)851-4167
URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd>

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所北海道支所の許可を得て下さい。